

The JIKKEI

VOL. 31

2018 / Summer

身的な働きもあり、東京
慈恵医院は、さらに皇室よ
り御恩恵を賜り、益々、発
展していくこととなる。

ロシア皇帝 ニコライ二世



ニコライ2世(ニコライ・アレクサンドロヴィチ・ロマノフ)
作者 不明 [Public domain], ウィキメディア・コモンズ経由で

明治二十四年(一八九二)五月十二日、
来日したロシアのニコライ皇太子
(後の皇帝ニコライ二世)が滋賀県
大津を通りかかった際に、護衛巡
査の津田三蔵に斬りつけられ、京
都の病院に入院した(大津事件)。
その際、皇太子を見舞うため、天
皇名代として西下された北白川

宮能久親王に学祖高木兼寛も随行することとなった。その後、皇太子の治
療は、ひと月あまりで完治したという。東京へ帰った学祖は、この年、皇室よ
り勲二等瑞宝章を、翌年八月には貴族院議員に任じられた。このような献

2 巻頭言 医科大学の社会貢献の在り方を常に考え
学祖の精神を継承していきたい
学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

Feature
3 Feature ① 巻頭インタビュー
求められている医療を組織として提供する
相澤病院理事長兼日本病院会会長 相澤 孝夫 氏

7 Feature ② 港区立がん在宅緩和ケア支援センター
「ういケアみなと」の開設
モットーは「住み慣れた地域で いつまでも自分らしく」

Ongoing
9 教育 医学教育分野別評価(日本医学教育評価機構)
新カリキュラムの策定・実施 国際認証の取得の先駆けに
そして、1期生が卒業 医学科長・教学委員長 教授 宇都宮 一典

11 研究 脳心血管病発症予防のためのメカニズム解明に挑む
臨床研究と基礎研究双方向からのアプローチ
内科学講座(糖尿病・代謝・内分泌内科)准教授 坂本 昌也

13 診療 高齢者の自動車運転免許の返還をめぐる
精神医学講座 教授 繁田 雅弘

Column
15 新任主任教授 専門分野紹介
17 国際交流センター移転と今後の展望
国際交流センター長 芦田 ルリ

Nursing
18 Nursing 地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える
地域連携看護学実践研究センター設立によせて
(Academic Nursing Practice Center for the Community)
看護学科長 北 素子

New Organization
19 診療部門の
新展開 ① 鼻中隔外鼻センター 鼻中隔外鼻センター センター長 宮脇 剛司

20 診療部門の
新展開 ② 遺伝診療部 東京慈恵会医科大学小児科学講座 遺伝診療部 川目 裕

21 News Flash (慈恵イベント)2018.1～2018.4 / 平成30年(2018)主な行事予定表
1月 新年挨拶交歓会 / 平成29年度 退任記念講義・パーティー
2月 第1263回成医会例会講演 / 港区教育委員会と連携 御成門小学校・御成門中
学校における「がん教育」の実施
3月 第93回医学科・第23回看護学科卒業式 / 慈恵看護専門学校卒業式 / 第10回
慈恵医大・上智大学ジョイントシンポジウム / 総合診療GP事業(成果報告会)
4月 新入職員就任式 / 平成30年度医学部入学式

26 Notice
▪ 大学広報(行事 / 公示 / 学事 / 訃報 / 東京慈恵会公報) ▪ 補助金・助成金
▪ 財務報告 ▪ 生涯学習・公開セミナー等 ▪ 寄付のお願い
▪ ガバナンス(行動憲章 / 行動規範) ▪ 医療連携窓口のご紹介



巻頭言 ● ——— 医科大学の社会貢献

医科大学の 社会貢献の在り方を常に考え 学祖の精神を 継承していきたい



学校法人慈恵大学 理事長
栗原 敏

本号では、相澤孝夫先生のインタビューが掲載されています。相澤孝夫先生は本学を昭和48年に卒業、その後、信州大学医学部附属病院で研鑽した後、相澤病院に帰り地域医療にご尽力なさっています。現在、日本病院会の会長をお務めになっており、日本の医療の在り方について多様な視点から発言されています。また、ご自身が運営している相澤病院の運営改革を行い、県民から信頼される地域中核病院の理事長として、地域医療を牽引されています。来院される患者さんを断らないで“診る”という病院の姿勢が患者さんの信頼を得ています。それには、病院が縦割りの診療体制でなく、各診療科が柔軟に患者さんを中心として連携することが必要ですが、相澤病院ではそれが実践されているようです。

また、先生はピョンチャンオリンピックのスピードスケート、女子500mで金メダルの栄誉に輝いた小平奈緒選手を支援したことで知られています。小平選手は練習に専念できる環境を求めていましたが、信州大学を卒業する間近、相澤先生と出会い相澤病院の職員として採用され、選手を続けることができたのです。相澤先生は、“小平選手の人生を支えたい”と新聞のインタビューで答えていました。金メダルを目指すのではなく、ひたむきにスケートに取り組んでいる小平選手を支えるのだという、相澤先生の言葉に惹かれました。究極のスケートを目指して精進している小平選手と、それを無心に支える相澤先生の絆

に何か清々しいものを感じます。また、相澤先生の支援を受けてきた小平選手が活躍し、国民を元気にして感動を与えたことは、大きな社会貢献だと感じました。

本学は今年4月から、港区立がん在宅緩和ケア支援センター(ういケアみなと)の指定管理者を引き受けることになりました。現在、日本人の二人に一人ががん罹患すると言われていています。がん患者さんは身体的にも精神的にも様々な悩みを持っています。その中で社会復帰することが求められており、職場でがん罹患しながら働いている方が数多くいらっしゃいます。港区ではがん患者さんが在宅で治療を受ける時の様々な問題の相談に乗れるようにという意図で、このセンターを開設しました。慈恵大学が指定管理者となり、常勤スタッフとして看護師、事務職、ソーシャルワーカーを配置し、その他、必要に応じて医師、専門看護師、栄養士、理学療法士などを派遣し、がんに関する情報の提供、患者さん同士の情報交換、専門家の講演会の開催、様々な問題の相談などを行っています。このセンターの指定管理者として協力することは医科大学の社会貢献の一つだと考えています。学祖・高木兼寛先生は、晩年、国民が健康で生活できることを望み、全国を回って講演会を開催し、健康に生活するための啓蒙活動に尽力しました。私たちは、医科大学の社会貢献の在り方を常に考え、学祖の精神を継承していきたいと考えています。

相澤孝夫

求められている医療を組織として提供する

相澤病院理事長兼日本病院会会長 相澤 孝夫 氏
 昭和22年5月25日、長野県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業、医学博士。信州大附属病院などの勤務を経て実家である相澤病院（長野県松本市）に戻り、平成6年、院長・理事長に就任した。病院は20年に社会医療法人の認定を受け、「社会医療法人財団慈恵会相澤病院」の名称に。29年6月には院長を退き、最高経営責任者になった。全国の病院が加盟する日本病院会会長や日本人間ドック学会の副理事長なども務める。

長野県松本市にある「社会医療法人財団 慈恵会 相澤病院」は、中信地方最大の民間病院であり、平昌冬季五輪金メダリストの小平奈緒選手の勤務先としても知られている。同病院の理事長の相澤孝夫氏は慈恵OBであり、一般社団法人 日本病院会会長も兼務している。各方面から注目される相澤氏に、経営理念や経営哲学、病院経営における課題、医療業界の今後について話を伺った。

現場の主体性を 引き出すことが 病院改革の 成功につながる

穎川 先生が1994年に相澤病院の理事長に就任されたときは、経営的に厳しい状況にあったと伺っています。病院の立て直しにあたって、どんな点に苦労されたのでしょうか。

相澤 当時、経営的に大変厳しい状況でした。どうしたら継続的に発展できるのかと悩んで、外部の経営コンサルティング会社が主催している一週間の合宿セミナーに参加しました。そこで学んだのは、働いている人が主体的に動く仕組みを作ることの重要性でした。それが今の私の基礎になっています。

その仕組みを作るためには、私自身の考えを明確に伝えて、みんなの意識を変えなくてはなりません。私は病院のミッションや経営戦略をまとめるとともに、70名いた課長以上の幹部と一人ひとりと膝を突き合わせて話し合いました。全員一度では熱量がその分薄くなります。一対一が大事なんです。

忙しい中で時間をやりくりして、毎月話し合うことを2年間続けました。そうするとみんなの考え方が変わってきました。エンジンがかかるまでは大変ですが、一度エンジンが掛かると動き出すのが実感できました。

穎川 相澤病院は、2005年に新型救急救命センターの指定を受けるなど、地域の救急病院として有名ですが、はじめから救急救命にこだわっていたのでしょうか。

相澤 病院として求められているのは救急救命でした。それに治療を断らないことは医療の原点です。現場からの反発もありましたが、「救急救命に特化する」という柱を掲げて全員に参加を呼びかけ、全員が少しずつ楽になれる仕組みを作りました。

具体的には、救急患者さんを受け入れる専門の病棟を作り、一般病棟での看護に負担がかからないようにしたり、朝までは救急医が担当して翌日には専門医に引き継ぐローテーションを組んだり、救急救命に参加してくれる医師には別途手当を給付したりしました。特に意識したのは、気持ちの面での負担を軽減することです。

浅野 病院改革に成功する秘訣はどこにあるとお考えでしょうか。リーダーシップをどう発揮するのかという面でも難しいところがあると思うのですが。

相澤 基礎固めがものすごく大事です。人の気持ちは一朝一夕では変わりません。3年間は我慢しようと思っていました。基盤を作って粘り強く働きかけることがコツと言えばコツかもしれません。

セミナーで、フォロワーの状況によってリーダーシップは変わってくるということを学びました。部下に力がないときはトップダウンで進め、力がついてきたら任せていくことです。これも一挙には変えられませんが、常に全体の動きを把握しておいて少しずつ権限を移譲し、現場が主体的に動いてくれる領域を広げていくことが大事です。

● インタビュアー



浅野 晃司
 学校法人慈恵大学 理事

穎川 晋
 東京慈恵会医科大学
 泌尿器科学講座講座担当教授
 (大学広報委員会委員長)

医療の品質を 担保するために 病院の組織自体を 変えていく

浅野 相澤病院では「医療品質会議」や「職員品質会議」といった会議体があると伺いました。どういう役割を担っているのでしょうか。

相澤 医療の世界は質の保証が前提です。しかし、どう質を保証するのかは、診療科によっても違ってきます。仕事をしている組織体はどうしても現状を優先するのが正しいと思込みがちですが、本当にそうとは限りません。そこで、外から医療の品質を検証してガバナンスを効かせられる組織が必要だと考えました。

2013年に甲信越地方で初めて国際的な医療機能評価機構であるJCIの認定をとったのも、同様の考えからです。世界標準の品質を基準として、自分たちはどうしていくべきかを考えることができます。各部署から会議のメンバーを集めて数値で指標を設けて品質を判断し、最終的にはその結果が病院全体の経営会議に上がっていくという仕組みを確立しました。

浅野 数値の設定が妥当かどうかは、他の病院とのベンチマーク分析をしたりするのでしょうか。

相澤 日本病院会として経営支援の一環でベンチマークを提供しているので、参考にはしていますが、むしろ重視しているのはトレンドです。前年と比較して改善されているかどうか大事なポイントです。全国の標

準より上であっても、改善されていない方が問題です。そういう視点に立つことで、現場から工夫が生まれ、実践的な教育訓練にもつながります。

穎川 小平奈緒選手を支援したのも、そうした目標達成の熱意に共感したからだと伺っていますが。

相澤 私は「真摯」であることを大切にしているのですが、偶然にも彼女も同じでした。目標を達成するためには、たとえ時間がかかっても、一所懸命に真摯に取り組むことが必要なんです。それは病院経営も同じ。そこがずれていると成功しません。

浅野 組織運営手法だけではなく、施設設備が充実していることにも驚きました。ガンマナイフ、トモセラピー、PET-CT、陽子線など、大学病院も顔負けの最先端の設備が揃っています。なぜここまで踏み出せるのでしょうか。

相澤 患者さんを早く診断して、早く治療して、早く治すにはどうしたら良いかを考え、病院に何が足りないのかを明確にして、補っていった結果です。

浅野 それを実行するためには、財務的な裏付けが必要ですか。どのようにコストの適正化を図っているのでしょうか。

相澤 収益を確保することは大事です。病院経営は患者さんの数と回転率です。そのためには、まず、来てくれる仕組みが必要です。一方で効率の悪いところは減らしていきたい。そう考えた結果、外来を極力減らしていくことにしました。380の地域の開業医さんと連携して、紹介診療と検査依頼に絞っています。現在、逆紹介率は120%になっています。

その代り、紹介された患者さんは絶対に断りません。開業医さんの立場から見ると電話一本で頼める病院は使い勝手が良いんです。結果として、450床の病院にしてはDPCの患者さんが多く、収益を確保できています。勿論、薬や材料など経費については共同購入を活用するなど、できる限り工夫して削減しています。



相澤病院は、平昌オリンピックのスピードスケート女子500mで金メダルを獲得した小平奈緒選手が勤務していることでも知られています。



患者さんに 必要なことから やるべきことは 見えてくる

穎川 現在、地域医療圏構想について議論されていますが、どのようにお考えですか。

相澤 大事なのはどういう医療ニーズが増えて、そこでなにが必要になるのか、という観点から考えるべきでしょう。鍵になるのは、人口動態です。東京は若い人がいるかも知れませんが、地方は高齢化がどんどん進んでいます。当然、求められる医療も違ってきます。そこを放っておいて話を進めれば、ミスマッチが生じてしまいます。

浅野 日本病院会は2500もの病院が加盟していて、各病院が持っている機能や規模、地域も異なりますから、会長として意見をまとめるのは大変そうですね。

相澤 着眼大局で臨んでいます。共通しているのは、患者さんに医療を提供するために、何が大事なのかということです。そこに立ち戻れば、自ずとやるべきことは見えてきます。ただ、組織として実行するためには、どうマネジメントするかが重要です。それができていなければ、無理やムダばかりになってしまいます。

浅野 行政を中心に病院長のガバナンス力をもっと強化すべきだという意見がありますが、この点に関してはいかがですか。

相澤 一人ですべてに対応するのは無理です。診療の現場には独自性を尊重しながら、ガバナンスを効か

せるには、別の組織を作って横串の視点を持たせるといった、組織的な対応が必要です。病院長個人としてのリーダーシップやマネジメント能力も大事ですが、システムで組織を見守るという発想も欠かせません。

病院という観点から見ても同じです。働き盛りの人が減っている中では、小さな医療圏だけで考えているのは病院経営が成り立ちません。ネットワークを広げて、周囲を巻き込んでいくしかないんですね。今度実験的に地域の急性期の患者さんが来やすい病院として「相澤東病院」を開設しました。地域のネットワークを活用しながら、24時間365日体制で在宅療養生活を支援していきます。

穎川 最後に慈恵OBとして今の慈恵についてのご意見をお聞かせください。

相澤 良い臨床医を育てるのが慈恵の特徴です。教えてもらったことはこれまでも役に立っています。最先端の医療が求められている中で、研究面では多少乗り遅れているという感じもありますが、良い臨床医も必要です。その両立は大変難しい。

病院では、救急救命をやりたい医師は今の働き方改革の枠組みには馴染めません。医師が働き方で病院を選べる制度があっても良いと思うんです。医師という仕事はそういう仕事です。慈恵に対しても、どういう医師を育てるのが、問われているのではないのでしょうか。



港区立がん在宅緩和ケア支援センター 「ういケアみなと」の開設

モットーは
「住み慣れた地域で いつまでも自分らしく」

港区立がん在宅緩和ケア支援センター ういケアみなとは、平成25年4月に策定した「みなと在宅緩和ケア支援センター事業計画」および平成28年2月に策定した「港区がん対策推進アクションプラン」に基づき、港区立がん在宅緩和ケア支援センター条例により、がん患者（がん患者であった者を含む）が住み慣れた地域で安心して療養を営むことができるよう、がん患者及びその家族を支援するために設置されました。

当センターは、港区からの委託により学校法人慈恵大学 東京慈恵会医科大学 附属病院を指定管理者として、平成30年4月、港区白金台に新たにオープンしました。



交流スペース



情報コーナー

設置目的

- ① がん患者とその家族が住み慣れた地域で可能な限り質の高い生活を送れるよう支援することを目的とした施設です。
- ② 現在日本では、生涯に2人に1人ががんにかかるといわれ、誰にとっても身近な病気であることから、がん患者及びその家族だけでなく、広く区民に開かれた施設とします。
- ③ 地域におけるがん診療連携拠点病院や医療機関等と連携及びニーズに応じて区の保険福祉サービスへ迅速につなげることができる自治体の強みを活かし、これまでにない都市型の新たな在宅緩和ケア推進のリーディングケースを目指します。



正面エントランス



講習室



相談室

愛称「ういケアみなと」の由来

区民の応募作品から選ばれました。区民一人ひとり(We)が力を合わせて、がん患者さんやご家族など、がん在宅緩和ケアに関わる人々をサポート(Care)していきたい、という気持ちが込められています。



ハートのアートはボランティア(がんサバイバー)により作成されました

5つの機能

① 相談事業

- ・看護師・医療ソーシャルワーカーによる個別面談および電話相談を行います。
- ・アピアランスケアサポート(外見のケア)として、ウィッグやカバーメイクなどの個別相談を行います。

② 交流事業

- ・訪問看護ステーション等との交流による支援活動の充実を図ります。
- ・港区のイベントである「みなと区民まつり」や「がん対策みなと」の参加やボランティアとの交流事業等を行います。

③ 普及啓発事業

- ・専門の看護師による生活の質向上のためのセミナーを行います。
- ・管理栄養士による栄養セミナー(料理の提案)や栄養相談を行います。

- ・健康増進を兼ねたリハビリテーションのセミナーを行います。
- ・情報コーナーには、書籍・パンフレットが配置されており、緩和ケアに関する製品として、ウィッグ・手術後の補整下着や栄養調整食品の展示紹介も行います。
- ・広報として、イベント案内のチラシ配布やホームページからもタイムリーな情報を発信します。

④ 調整事業

- ・港区をはじめとした行政機関、医師会および在宅支援機関等の関係機関との調整を行います。
- ・本学附属病院の専門職種によるネットワークとの協力体制を構築します。
- ・地域支援ネットワークの構築(港区の地域包括ケアシステム等)に関する協力を進めます。

⑤ 人材育成事業

- ・がん在宅緩和ケアに携わる、支援者の教育と人材育成のためのセミナーを行います。



■ 施設概要

名称: 港区立がん在宅緩和ケア支援センター
愛称: ういケアみなと
所在地: 〒108-0071 東京都港区白金台4-6-2
ゆかしの杜5階
地下鉄南北線・三田線 白金台駅
建物: 旧 国立公衆衛生院
昭和13年竣工 地下1階地上6階塔屋4階
当施設は5階右翼部分
延床面積: 652.99㎡(本施設)
指定期間: 2018年4月1日から2023年3月31日まで

■ 施設の運営

開館日時: 月曜～金曜 10:00～21:00
土曜 10:00～17:00
休館日: 日曜、祝日、12月29日～1月3日
人員: 施設長、副施設長、看護師、事務員、医療ソーシャルワーカー(常勤6人、うち看護師3人)相談対応のため開館中は看護師が常駐しています。
主な諸室: 相談室4室、講習室(机席36、椅子席60)、情報コーナー、交流スペース、事務室等
利用対象者: 区内に住所を有するがん患者およびその家族並びにそれらを支援する者として。ただし、情報コーナーおよび交流スペースは出入り自由となっています。
講習室を利用できるものは、がん患者を支援する団体とし、事前登録と区長の承認が必要です。

■ どんどころ?

ここを訪れる人々が気軽に立ち寄ることができ、安らぎと親しみを感じていただくことを大切にしています。交流スペースと情報コーナーにおいては、開館時間内の出入りは自由になりますので、ライフスタイルに合わせてご利用いただけます。自分と同じような境遇にある人たちと語り合うことで、自分が決してひとりではないこと、自分らしく生きていくことの大切さに気付いていただくきっかけとして、当施設を活用していただきたいと思っております。がん患者さんのみならず、そのご家族やご友人、がんや在宅緩和ケアに関する情報を知りたい方など、広く皆さんの訪問をお待ちしております。

URL : <https://www.minato-hpccsc.jp/>
E-mail : info@minato-hpccsc.jp
TEL : 03-6450-3421
FAX : 03-6450-3583



Ongoing
01
教育

医学教育分野別評価(日本医学教育評価機構) 新カリキュラムの策定・実施 国際認証の取得の先駆けに そして、1期生が卒業



医学科長・教学委員長
教授 宇都宮 一典

現 在、日本の医学教育は大きな変革期にある。これは本誌でも、既に何回か本学の教育改革に関係して取り上げていただいた。医学教育に、国際基準に基づいた外部認証による質保証を導入しようとするグローバルな動きに呼応して、2010年に米国医師国家試験の受験資格を審査するECFMGが、「2023年から、米国医科大学協会か世界医学教育連盟(WFME)の基準による認証を受けていない大学の卒業生には米国の医師国家試験受験を認めない」との声明を発表した。日本の医学教育は戦後独自の道を歩んできたが、診療参加型臨床実習(Clinical Clerkship, CC)が不足しており、国際基準を満たさないことが以前から指摘されていた。ECFMGの宣言によって一挙に顕性化し、急ぎ対応を迫られることになったのである。そのためには、CCを中心とした臨床実習週数の増加を図るとともに、我が国において世界医学教育連盟が認める認証機能を持つ組

織を立ち上げなければならなかった。

そ こで、文部科学省はモデルカリキュラムの策定拠点を定める目的で、GP事業として2012年から「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」を公募することとした。本学では、阿部正和第8代学長が纏められ、現在の医学教育のひな型となった「文部省医学教育の改善に関する調査研究」以降、この提言に則った先進的なカリキュラム改革に取り組んできたが、次の課題としてCCの充実を検討していた矢先であり、本学にとってはまさに時宜をえたものだったのである。本学の「参加型臨床実習のための系統的教育的構築」事業がこのGPに選定され、全国のモデルとして、CCを拡充する大幅なカリキュラム改定に着手することになった。

一 方、国際認証機構の立ち上げに関して、文部科学省は「医学・歯学教育認証制度等の実施」事

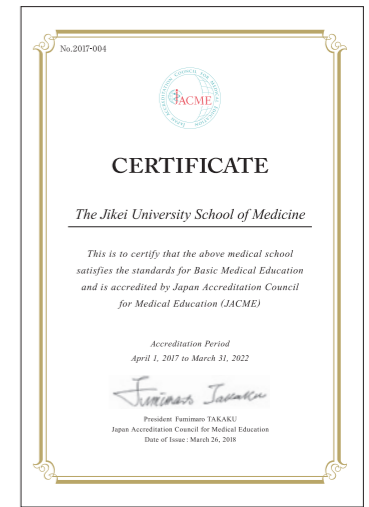
業を企画し、本学を含む6大学の連携の中で我が国における国際認証機構、日本医学教育評価機構(JACME)の設立を目指すこととした。WFMEが策定した国際認証基準の日本語訳「医学教育分野別評価基準日本版」に基づいて、国内で外部評価トライアルを実施し、その実績をもってWFMEの認定を得ようとしたのである。本学はこのトライアルを2014年6月に受審し、高い評価を受けた。JACMEは、さらに10大学余りの外部評価トライアルを行い、その内容を報告・申請した結果、2017年3月WFMEの認定を受け、我が国における国際認証機構として公式に立ち上がった。そこで2017年5月、先のトライアル時に本学が指摘された事項についての改善報告書を再提出し、同年12月、JACMEから医学教育分野別評価における正式な認定を受領した(認定期間:2017年4月1日~2022年3月31日)。通称、国際認証と呼ばれているもので、現在、他の多くの大学は受審中あるいはその準備をしている段階にあるが、本学はその先駆けとなり、国際基準を満たす教育の認定を受けたのである。この間、教学委員会を中心として多くの教職員・学生諸君にご尽力をいただいたことに、心からのお礼を申し上げる。

新 カリキュラムは2015年度4年次より開始され、全臨床実習週数は6年間で75週間に及ぶものとなり、このうち4年次後期から5年次前期の1年間で全科臨床実習(従来のポリクリ)、5年後期から6年前期の1年間でCCとなっている。本学にとって幸いなことは、ポリクリは指導層の豊かな本院、CCは第1線の診療現場である分院ないしは教育関連病院と、臨床実習の目的に合わせて実習施設の使い分けができたこと、本院・分院が密接

な連携の中で運営されていることから、各病院の全面的な協力が得ることができ、しかも指導医のスキルが均質だったことで、これは他学では到底望めないことである。また、CCの中には選択実習として海外実習を組み入れて

いる。現在、欧州、米国、台湾、シンガポールなどに10を超える協定校があり、一定以上の語学力を有する者に海外実習を許可し、協定校には渡航費を支援している。これを希望する学生は年々増加し、20名強の学生がCC間に海外実習を経験している。2017年7月、CC修了認定のために2日間に亘り、100名を越す臨床系教員の協力をえて、Post-CC OSCEを実施した。

2 018年3月3日、全カリキュラムを修了した1期生に対して、新装なった2号館講堂でこれも初めての卒業式を挙行了。登壇して、松藤千弥学長から卒業証書を受け取る卒業生の頼もしく成長した顔をみながら、各々の学生の実習時の思い出が頭をよぎり、万感胸に迫る思いがした。このような感激は、自分の卒業時以来である。私が教学委員長拝命時に付託された大きな使命は、新カリキュラムの策定・実施と国際認証の取得であったのだから、私こそ卒業生に感謝しなければならない。しかし、その真の成否の検証は、彼らの将来の活躍によることを忘れてはならない。



国際認証の取得の経緯

- 2010年** ● ECFMGは「2023年から、米国医科大学協会か世界医学教育連盟(WFME)の基準による認証を受けていない大学の卒業生には米国の医師国家試験受験を認めない」と声明を発表
- 2012年** ● 文部科学省GP事業「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」の公募に、本学の「参加型臨床実習のための系統的教育的構築」が選定される
- 2014年6月** ● WFMEが策定した「医学教育分野別評価基準日本版」に基づき、本学は外部評価トライアルを受審、高い評価を受ける
- 2017年3月** ● 日本医学教育評価機構(JACME)がWFMEの認定を受け、我が国における国際認証機構として公式に立ち上がる
- 2017年5月** ● 3月の外部評価トライアル時に指摘された事項について、本学より改善報告書を提出
- 2017年12月** ● JACMEから医学教育分野別評価における正式な認定(通称:国際認証)を受領
- 2018年3月3日** ● 新カリキュラムの全課程を修了した1期生の卒業式を挙行

脳心血管病 発症予防のための メカニズム解明に 挑む

臨床研究と
基礎研究双方向からの
アプローチ



内科学講座
(糖尿病・代謝・内分泌内科)
准教授 坂本 昌也

様々な変動と脳心血管イベント発症との関係

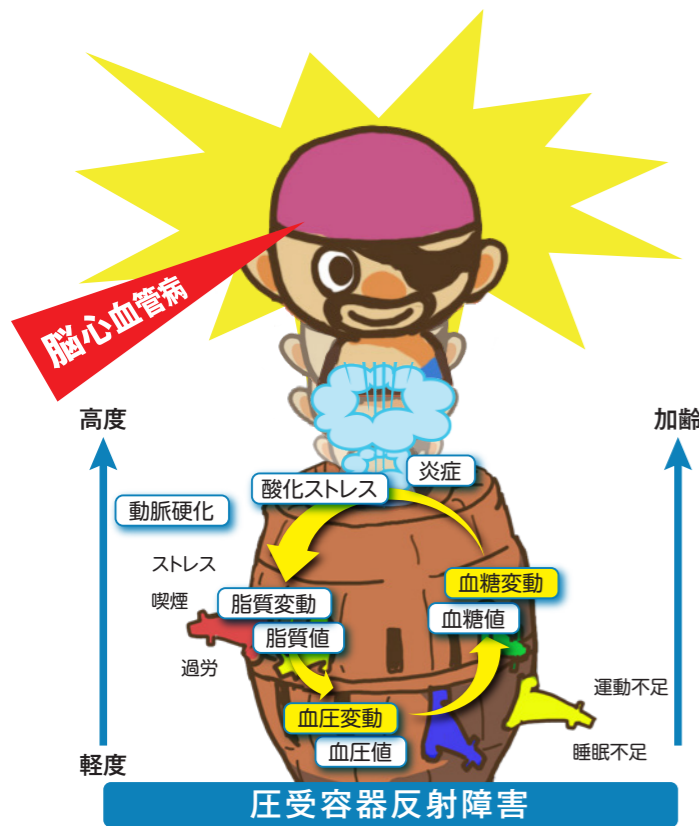


図1

フリーイラスト素材サイト「いらぶら」より引用改変

1 はじめに

食生活が欧米化し、多くの人々がストレスを抱える現代において、生活習慣病を基盤とした、脂質異常症・高血圧症・糖尿病患者の数は増加の一途を辿っている。その結果、合併症である脳心血管病発症患者も増え続けている。今後高齢化が進む本邦の状況を鑑みても、これらの治療及びその病態解明を進めることは社会的急務と考えられる。

2 生活習慣病の治療の現状と問題

糖尿病患者では、脂質異常症及び高血圧症の合併が多い。そのため、糖尿病患者の脳心血管病発症を予防するために、食事・運動療法に加えて、血圧・脂質及び血糖値(HbA1c)を指標としたTreat to target法が用いられ、一定の成果を挙げてきた。近年では様々な薬剤が開発され治療介入がなされており、死亡率低下への有効性も示されている。しかし、最近では目標値を設定する治療だけでは、予後改善には限界があることも報告されている。さらに、2018年3月に糖尿病のコントロール指標であるHbA1c値に幅を持たせるべきとする提言がアメリカ内科学会から出され、その直後に同国内・糖尿病学会から合併症増加への懸念を“深く憂慮する”とのコメントが出されるなど、国内外を問わず、目標値設定について議論百出となっている。

生活習慣病の治療目標は個別の年齢、罹患期間、サポート体制などを考慮した、いわゆるテーラーメイド治療が叫ばれて久しいが、各々の病態の把握は難しく、合併症進行のサロゲートマーカーになるものも多くはない。あった場合でも各疾患別に分かれ、検査すべき項目も多くなり、検証が難しいのが現状である。また、血圧コントロール目標値においても血糖値と同様のことが起こっており、欧米の学会治療目標値は度々変更されているが、本邦においても同様の傾向にあるのが現状である。

こうしたこと背景には様々な要因が考えられるが、その一つとして、我々の研究では、HbA1cのみならず、血圧・脂質・体重に季節間変動があり、検査時期によって各値の達成率は大きく変動することを明らかにしている。さらにこれらのパラメータに体重変動の関与している可能性も見い出している。近年では体重の季節間及び年間変動も予後に関与している事が報告され、注目すべき事項と考えている。現状の目標値に関する議論はこれら変動に関わるエレメントを考慮

する必要があると考えられる。

3 現在の取り組みと今後の展望

当研究グループでは、“変動のメカニズムの解明”をテーマに挙げている。近年、血糖値変動・血圧値変動・脂質値変動の重要性が注目され始めているが、その定義は明確なものはない。以前は各値の変動は患者側の食生活を含めたライフスタイルによるものであると説明されていたが、近年の血糖及び血圧測定機器の開発により研究が進み、ライフスタイルを考慮しても変動そのものが心血管イベントに影響していることが判明した。我々は、これまで関係が薄いと考えられていた、血糖と血圧の変動が連関していることを見出し、そのメカニズムとして、頸動脈洞及び大動脈起始部に存在する“圧受容器”が大きく関与していることを仮説として基礎及び臨床研究を行っている(図1)。既に動物実験レベルにおいては野生型ラットに圧受容器機能を低下させる処置を施すと耐糖能異常をきたすこと、さらには2型糖尿病モデル動物においても、同処置を施すと心機能が著しく低下する事象から、圧受容器機能低下が糖尿病の代謝障害にも影響を与えていることを見いだした。また、臨床においては、以前から動脈硬化が進行している状態では圧受容器機能が低下していることが示唆されていたが、我々の研究では、この圧受容器機能低下は、動脈硬化が進行する以前の糖尿病自律神経障害の初期から発症しており、尚且つ血糖変動と相関している事を報告している¹⁾(図2A)。

我々は圧受容器機能が低下は高血圧、脂質異常症とも関与しており、メタボリックシンドローム発症の時期からおこる現象であると推測している。近年では持続血圧測定のみならず、持続血糖測定器も動物モデルで開発されており、我々は世界で先駆けてこの機器を用いた研究を報告して

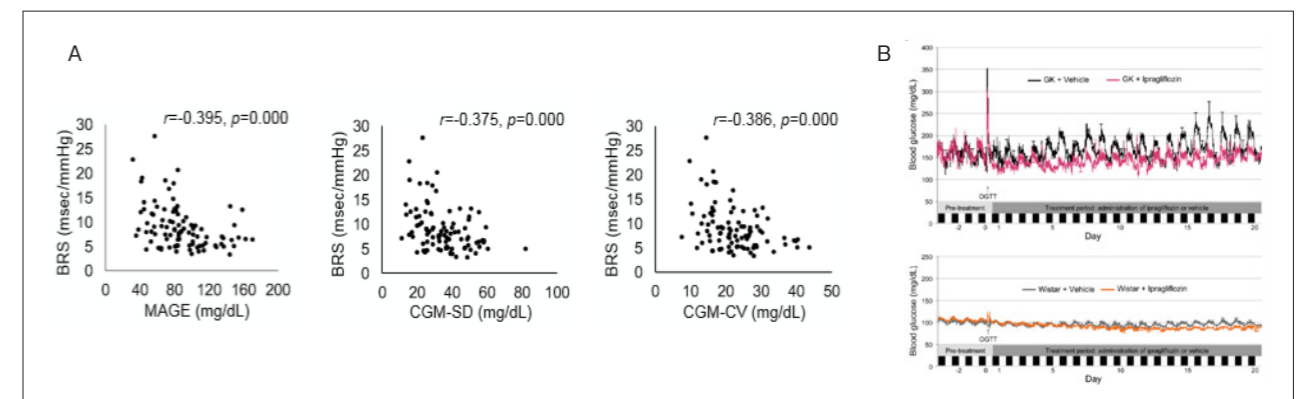


図2

いる²⁾(図2B)。さらに血圧変動に関する研究をin vitroで進めるための独自のデバイスを開発して研究を進めている。これら臨床で報告されている結果を動物モデルを用いてメカニズムを検証し、得られた新知見を臨床にフィードバックするという手法で脳心血管代謝障害とトータルに診ることを目標としている。

4 おわりに

生活習慣病による合併症は血管から神経・細胞を通して様々な臓器へ影響を及ぼす。特に脳心血管病は突然発症が多く、一度発症した場合は患者のみならず、その家族にも多大な影響をもたらす。基礎研究による病態の解明、デバイス発展により、疾患の発見と診療の質は向上が期待される。一方、このように、脳心血管病予防の治療においても日進月歩の明るい兆しがみられることは喜ばしいことである。しかし、限られた診療時間の中で検査結果の伝達に重きが置かれることにより、仮に医師・患者間もコミュニケーションに割かれる時間が短くなることもあっても、疎かになってはならないことを述べておきたい。何時も“病気を診ずして 病人を見よ”の至言を念頭に、昨日よりすぐれた今日、明日の方向性を常に模索し続けたい。

- 1) Matsutani D, Sakamoto M, Iuchi H, Minato S, Suzuki H, Kayama Y, Takeda N, Horiuchi R, Utsunomiya K. Cardiovasc Diabetol. 2018, 7;17(1):36.
- 2) Iuchi H, Sakamoto M, Matsutani D, Suzuki H, Kayama Y, Takeda N, Minamisawa S, Utsunomiya K. Sci Rep. 2017,19;7(1):11906.





Ongoing
03
診療

高齢者の自動車運転免許の返還をめぐる

改 正道路交通法が施行され、75歳以上のドライバーが運転免許証を更新するには認知機能検査を受け

なければならなくなりました。その検査とは、①見当識、②絵の記憶、③時計描画の問題です。①は、年月日、曜日、時刻



精神医学講座
教授 繁田 雅弘

を答える問題です。②は4枚(図1)の絵を1分見るとを4回繰り返し(計16種の絵)、後で思い出して用紙に記入するものです(図2)。その後ヒントが付いて思い出す問題です(図3)。ただ、絵を見た後に数字に斜線を引く問題を30秒させられて、注意をいったん外されます(図4)。③は、時計の絵を描き「11時10分」、「1時45分」、「8時20分」、「2時45分」のどれかの時刻の針を描くよう指示されます。採点方法は公開で49点取れないと認知症に関する診断書が必要になります。

運 転を止めさせることは生活手段を奪い(とくに過疎地)、生きがいを奪うことだと非難した人がいました。また医師が認知症と診断すると、医師・患者関係を壊すと心配する声もありました。しかし移動手段や生きがいのために、人を傷つけるリスクを許容すべきと考える人はいないでしょう。家族を傷つけられ失った人の気持ちを想像するまでもありません。とくに公共交通機関が発達している都市部での運転は許容されないでしょう。あるいは認知症になっても運転できる人がいるという意見もあります。しかし、運転できることと、事故を起こさないことは同じではありません。もし認知症の人が高齢者によくある過失で人身事故を起こしたとき、それは高齢であったため認知症が原因ではないと被害にあった家族が説明を受けても

納得はできないでしょう。不合格になっても診断書提出期限の2か月以内なら何度だって認知機能検査を受けることができます。2回目で合格する人もいますので、免許をまだあきらめられない人は再受験を勧めます。一方、何回か不合格になることで、あきらめがついた人もいます。

免 許返納を拒否する人は運転ができなくなることで体が嫌なのではありません。「認知症」や「ボケ」とみなされることが嫌なのです。だから認知症だから運転を止めた方がいいと言われても止めなかった人が、高齢を理由にあっけなく止めたりします。「年を取れば若い時と同じ運転はできません。若い頃との違いに気付いておられますね。誰しも100歳まで運転はできません。とすれば今が一つのタイミングではなんでしょうか」と説得したこともある。運転を止める決断は重大です。自尊心が保たれていなければなりません。「もし認知症になったら運転を止める判断は自分でできなくなるかもしれません。しかし今の〇〇さんはしっかりしておられるので、自分で止める決断ができるのではないのでしょうか。認知症になったらいやいや取り上げられることになるかもしれません。いつやめるか、しっかりしている今のうちに判断したほうがよいではありませんか」と話して止められた人もいます。

4枚の絵を1分見るとを4回繰り返し(計16種の絵)、後で思い出して用紙に記入する



図1

16枚のうちのはじめの4枚。この16枚のパターンが4つある。どれが出題されるかはその場にならないと分からない。

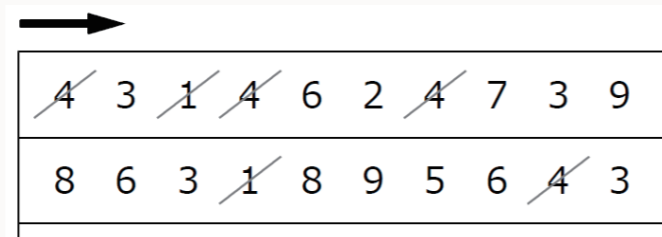


図4

全体の10行のうち2行のみ示しました。

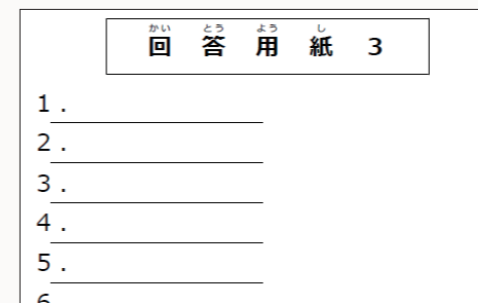


図2

16枚の絵に描かれていたものを思い出して記入します。

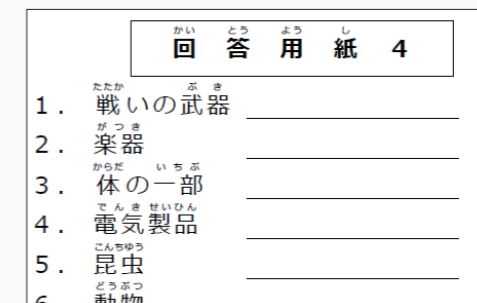


図3

今度はヒント付きで思い出して記入します。



細菌学講座
金城 雄樹

細菌・真菌感染症の病態及び生体防御機構の解明、新規のワクチンや治療の開発研究に邁進します。各講座と連携し、感染症研究を推進するとともに、感染症分野を担う人材育成に努めます。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

- 略歴：平成10年 琉球大学医学部医学科卒業
平成10年 琉球大学医学部第一内科(感染症・呼吸器・消化器)入局
平成15年 琉球大学大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)
平成15年 La Jolla Institute for Allergy and Immunology, Postdoctoral fellow
平成18年 La Jolla Institute for Allergy and Immunology, Research scientist
平成21年 国立感染症研究所生物活性物質部第三室(免疫制御研究室)室長
平成25年 国立感染症研究所真菌部第三室(免疫制御研究室)室長
平成30年 東京慈恵会医科大学細菌学講座主任教授

- 出身地：沖縄県
- 趣味・特技：散歩、映画鑑賞

平成30年7月3日公示



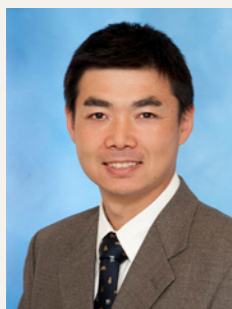
皮膚科学講座
朝比奈 昭彦

皮膚免疫学とそれを背景とする皮膚疾患、特に乾癬を専門とし、最先端の治療を推進します。皮膚のスペシャリストとして他科との連携に努め、人材を育成してまいります。皆様からのご指導、ご鞭撻をよろしく願い申し上げます。

- 略歴：昭和62年 東京大学医学部医学科卒業
東京大学医学部皮膚科学教室入局
昭和64年 公立学校共済組合関東中央病院皮膚科医員
平成4年 ~6年 米国MGH-Harvard Cutaneous Biology Research Center留学
平成10年 東京大学医学部皮膚科学教室講師
平成13年 東京大学医学部皮膚科学教室助教授
平成17年 独立行政法人国立病院機構相模原病院皮膚科医長
平成26年 東京慈恵会医科大学皮膚科学講座准教授
平成28年 東京慈恵会医科大学皮膚科学講座教授
平成30年 東京慈恵会医科大学皮膚科学講座主任教授

- 出身地：神奈川県
- 趣味・特技：旅行

平成30年4月1日公示



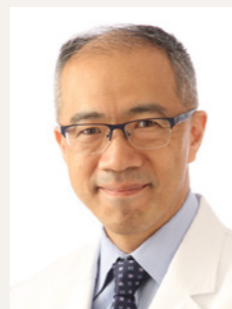
外科学講座
(呼吸器外科、乳腺・内分泌外科)
大塚 崇

日米で胸部外科の臨床、研究、教育に携わって参りました。外科を通じて日本社会に貢献し、また世界に発信する人材育成を行って参ります。皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

- 略歴：平成8年 慶應義塾大学医学部卒業
平成11年 慶應義塾大学医学部外科学教室(呼吸器)助手
平成14年 東京都済生会中央病院呼吸器外科医員
平成18年 University of Michigan 呼吸循環器内科リサーチフェロー
平成21年 University of Michigan 胸部外科臨床フェロー
平成23年 慶應義塾大学医学部外科学(呼吸器)講師
平成27年 慶應義塾大学医学部外科学(呼吸器)准教授
平成30年 東京慈恵会医科大学外科学講座(呼吸器外科、乳腺・内分泌外科)教授

- 出身地：群馬県
- 趣味・特技：ジョギング、読書、アメリカンフットボール

平成30年7月1日公示



心臓外科学講座
國原 孝

ドイツで習得してきた大動脈弁を置換しないで温存・形成する手術を日本で普及させるべく幅広く活動しております。小児を含めた心臓・近位大血管手術全般に渡って質の高い医療を提供すべく優秀な人材育成を目指してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

- 略歴：平成3年 北海道大学医学部医学科卒業
平成3年 北海道大学病院第二外科・循環器外科入局
平成8年 北海道大学病院循環器外科医局員
平成12年 ドイツ、ザールランド大学病院胸部心臓血管外科勤務
平成15年 北海道大学病院循環器外科医局員
平成17年 北海道大学病院手術部助手
平成19年 ドイツ、ザールランド大学病院胸部心臓血管外科勤務
平成25年 心臓血管研究所付属病院心臓血管外科部長
平成27年 東京慈恵会医科大学非常勤講師
平成28年 北海道大学客員教授
平成28年 東京医科歯科大学臨床教授
平成28年 獨協医科大学臨床教授
平成30年 東京慈恵会医科大学心臓外科主任教授

- 出身地：神奈川県川崎市
- 趣味・特技：サイクリング、ワイン

平成30年6月1日公示



看護学科 成人看護学
中村 美鈴

学祖・高木兼寛先生の建学の精神のもと、教育・研究・社会貢献における活動をバランスよく推進できるよう、The JIKEI人として最善を尽くして参ります。また、教職員の皆様と協同して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与できるよう、微力ながら務めて参ります。皆様からのご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

大阪大学大学院 医学系研究科保健衛生学専攻 博士後期課程修了 博士(看護学)取得
東京医科歯科大学医学部附属病院等で臨床看護師として経験を積み、教育研究職へ転職。
聖母女子短期大学(現、上智大学)成人看護学講師、杏林大学保健学部成人・高齢者看護学講師

- 略歴：平成14年 自治医科大学看護学部成人看護学就任
平成17年 自治医科大学看護学部成人看護学教授
平成18年 自治医科大学大学院看護学研究科クリティカルケア看護学教授
平成24年 自治医科大学大学院看護学研究科広域実践看護学教授
平成30年 東京慈恵会医科大学医学部看護学科成人看護学教授
東京慈恵会医科大学大学院医学研究科急性・重症患者学教授

- 出身地：長崎県
- 趣味・特技：読書・ワイン

平成30年4月1日公示



International Caféに集まる! 学生・大学院生・研究員・教員・医師・来客(タイからの医師)

国際交流センター移転と今後の展望

国際交流センター長 芦田 ルリ

1 国際交流センター移転

2018年3月、国際交流センターが管理棟1階に移転した。愛宕通りに面した窓に囲まれた明るいスペースは、International Caféをはじめ、本学と海外からの教員や学生の交流の場であるとともに、学生や医療者の医学英語力を伸ばす実習や講演会等、様々な国際交流事業を行う場として活用されている。壁の世界地図には海外協定校10校が示され、上方にはその時に臨床実習で来学している学生の国旗が数多く掲げられている。書棚には海外の大学に関する資料や英語のDVDが並び、テーブルには英語の雑誌や新聞が置かれている。パソコンにはオンラインで学べる海外の講義等を紹介し、自然と英語に浸る環境が作られている。

2 模擬患者参加型英語医療面接

国際交流センターの医学英語教育への役割は今後も重要である。海外で選択実習を行う学生にとってはspeaking力が積極的に参加できるかどうかの鍵となるが、日本の学生は概ねspeakingが苦手である。国際交流センターでは2015年からカリキュラム外で海外実習を行う5年生中心に外国人模擬患者参加型英語医療面接実習を行ってきた。患者さんから話を聴きその内容を臨床医に英語で報告する臨床に即した実践英語は、2018年度から5年生の選択科目としてカリキュラムに導入され海外実習を行う学

生には必修となった。低学年では1年生の有志に実習を行いオープンキャンパスで外国人模擬患者参加型英語医療面接を行ってきたが、見学者の反響が大きいためには昨年からはオープンキャンパス両日に行うようになった。今後さらに多くの低学年の学生が参加できる実習を計画していきたいと考えている。外国人模擬患者参加型医療面接実習は看護学科でも毎年2月に「国際看護実践」受講の3年生に行っている。また、病院の看護師や事務職員にも英語演習を行っているが、これまでのように単発的ではなく、継続的に行っていきたいと考える。国際交流センターにはシミュレーター(マネキン)も常設されたので、外国人模擬患者とシミュレーターを活用した実習も行っていく予定である。

3 海外協定校の拡充

海外協定校の拡充は多くの学生が海外で実習できる機会を増やすために必須である。シンガポール国立大学とは2017年12月に松藤学長と国際交流センター運営委員会メンバーが訪れて、正式に3名の医学生交換の協定を交わした。看護学科でもシンガポール国立大学との交流を進めている。また、オーストラリアのQueensland大学医学部とは協定が決まりつつある。その他の海外協定校の拡充は、本学の先生方と連携しご紹介いただきながら進めていきたいと考えている。対象は学部生のみならず大学

院生・研究者にも及ぶ総合的な協定が望まれる。

4 海外医学生の受入れ

海外からの医学生の受け入れに関しては年々増加し、2018年度の受け入れ数は4月末で既に100名を超えている。人数増加と共に世界各地からの応募があり、リスク管理の面から受け入れに慎重にならざるを得なくなってきた。国際交流センター運営委員会は、今後は信頼関係のある協定校からの学生と外務省のvisa免除国からの学生のみ受け入れることを決め、安全対策を講じながら国際交流を推進していくこととした。

5 今後の展望

国際交流センターは、今後も医学英語教育や国際交流の面から大学と病院全体の国際化を支援しながら、地域のグローバル化にも貢献していく所存である。東京オリンピックとその後の日本を見据えて長期的に国際人の育成と海外とのグローバル・ネットワークの構築に尽力していきたいと考えている。



ハワイ大学(協定校) Dr. Gregory G. Maskarinec, Director of Global and International Health 来学

地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える 地域連携看護学実践研究センター (Academic Nursing Practice Center for the Community) 設立によせて



看護学科長 北 素子

この度、国領キャンパスに地域住民の健康と生きる力を看護の力で支えることを目指す地域連携看護学実践研究センター(Academic Nursing Practice Center for the Community)が設立される運びとなりました。

地域の住民が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる環境を作り上げるために、団塊世代が後期高齢者となる2025年度以降を見据え、地域包括ケアシステムの整備が進んでいます。こうした中で、大学はあらゆる世代の健やかな暮らしを支える社会環境のひとつに位置づけ、その地域の「知の拠点」として社会貢献することが求められています。

本学では、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業において、大学と当該地域の地方自治体や産業界との連携体制の構築(プラットフォーム形成)が推進されるようになったことに伴い、調布市大学プラットフォームへの参画が検討されています。こうした中で、

国領に拠点を置く本学看護学科および協力体制にある大学院看護学専攻は、これまで以上に地域貢献していく必要性が高まっています。

従来看護学科では、年に2回の公開講座、転倒予防等の教員の個人研究ベースでの地域貢献、学生実習での期間限定の「まちの保健室」活動、領域単位での地域の訪問看護ステーションや保育園などの要請に応じた単発的な研修会を行ってきましたが、組織的な地域貢献活動になっていません。また同様に地域へのアウトリーチ活動を行っている附属第三病院や医学科国領校との連携も図られていません。本センターでは第三病院や医学科国領校との連携を図りながら看護学科・看護学専攻で行う活動を体系的にとりまとめ、地域の住民、自治体、保健・医療・福祉機関との継続的・組織的パートナーシップを構築し、各々のニーズを評価・マッチングして、看護の視点で地域住民の健康と生きる力を支えるより効果的な活

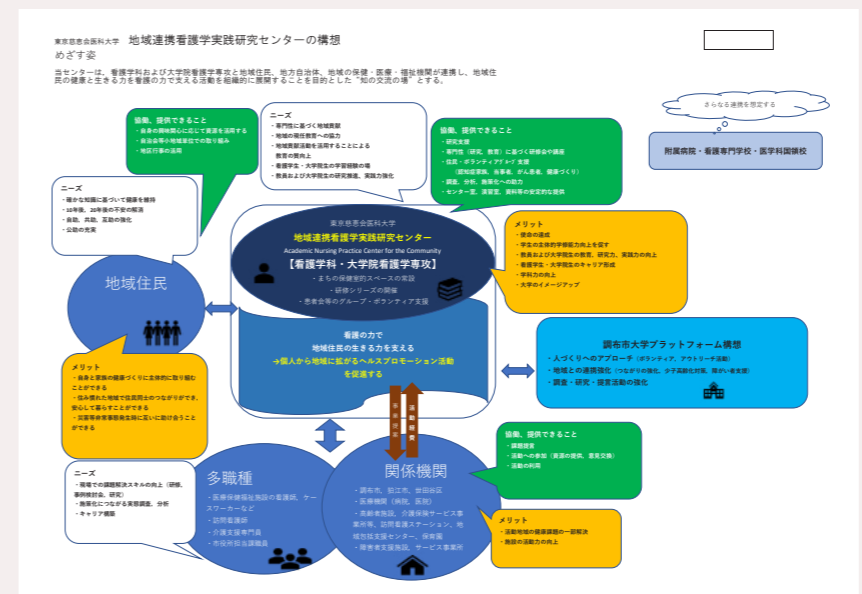
動を展開したいと考えています。

さらにこのセンター活動には、看護学生と大学院生に学修経験の場を提供し、地域医療連携能力を備えた看護人材の育成に繋げることや、実践フィールドを持たない看護教員に専門性を生かした活動の場を与え、実践力の保証・強化に繋げること、さらに看護教員および大学院生の研究により看護ケアのエビデンスを生み出し発信する機能を持たせることを構想しています。

調布市大学プラットフォームへの参画検討にあたり、看護に関わる活動の窓口となる部署を早急に設置する必要性から、看護学科・看護学専攻と地域との連携からスタートしますが、近い将来の附属病院、医学科国領校、看護専門学校との連携を視野に入れることで、本センターには第三地区全体の活性化に寄与し、慈恵にしかできない活動を目指したいという願いを込めています。

地域連携の範囲は調布市、狛江市、世田谷区とし、当面は行政や地域住民および関連施設へのヒアリングを重ねながら①「まちの保健室」的スペースの常設による健康予防活動、②公開講座や研修のシリーズ開催による地域住民や地域のケア関連施設への貢献、③健康課題当事者やその家族グループおよびボランティアグループの支援を主軸とし、実行性ある活動内容を計画する予定です。

センター長には本年度より看護学科特任教授として着任された佐藤紀子教授をお迎えし、慈恵大学と地域社会に貢献できるセンター活動を目指し、たゆまず歩みを進めてまいります。何卒ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



診療部門の
新展開
01

鼻中隔外鼻センター

鼻中隔外鼻センター
センター長
宮脇 剛司

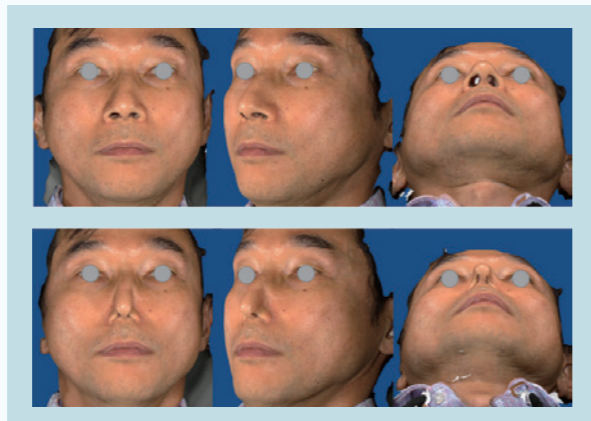


この度2018年1月1日より附属病院のゆるやかなセンター化の一環として鼻中隔外鼻センターが設置されました。鼻は“機能”と“整容”に関わる重要な構造です。治療対象は、外傷や先天異常に伴う外鼻変形に起因する鼻閉、鼻弁狭窄に伴う鼻閉、鼻中隔矯正術後も残存する鼻閉など、従来の鼻中隔矯正術では治療の困難とされた病態です。鼻中隔外鼻形成術は欧米や韓国では広く行われていますが、日本ではまだ普及していません。慈恵医大では2005年頃より本術式を導入し、現在までに約300例の治療を行ってきました。具体的な手術は鼻柱の横方向の切開を鼻内に延長して鼻の骨格をすべて直視下に確認し鼻の骨格形態を修正して機能改善を図るものです。鼻柱を切開するのでキズが目立つことを心配される方がいますが、時間とともにほ

とんど目立たなくなります。当センターでは鼻内手術を専門とする耳鼻咽喉科と、外鼻手術を得意とする形成外科のそれぞれの専門家が鼻中隔外鼻形成術を合同で行い、鼻閉改善に取り組むという大変ユニークな



グラフは2005年以降の手術件数を示す



治療が困難な鼻弁狭窄症の安静時(上段)と強制吸気時(下段)の三次元写真

チーム医療を提供しています。実際の治療対象は1)鼻中隔軟骨の上弯と前弯、2)鼻弁狭窄、3)鼻骨変形治療骨折と先天性外鼻変形などです。現在広く行われている鼻中隔矯正術は鼻中隔の前方部分をL字型に温存し弯曲した鼻中隔深部を切除する術式です。このL字構造の鼻背側の弯曲を上弯、尾側部の弯曲を前弯と呼びますが、従来の術式では温存したL字型の軟骨(L-strut)に外鼻骨格強度が依存するためL-strutの温存が前提でした。そのためL-strut自体が高度に変形した症例では鼻閉を改善できないことがありました。鼻中隔外鼻形成術を導入することでこのL-strutに付随した鼻弁狭窄を含む諸問題を解決できるようになりました。外鼻変形を伴う鼻閉の方は当センターへご紹介いただければ幸いです。

診療部門の
新展開
02

遺伝診療部

東京慈恵会医科大学附属病院
遺伝診療部
川目 裕



「遺伝診療部」の開設

すべての診療科において近年、遺伝情報・ゲノム情報を利用した診療が始まっています。未診断の患者の診断、治療法や健康管理の決定のために、網羅的に遺伝子を解析する“未診断疾患イニシアティブ(IRUD)”、母体血液の胎児胎盤由来のDNAを網羅的に解析することによる胎児の染色体異常症候群を診断する“母体血胎児染色体検査(いわゆるNIPT)”は臨床研究として既に展開されています。がん治療のための薬剤選択のために、がんの体細胞の数百の遺伝子を網羅的に検査するがんクリニカルシーケンスやコンパニオン診断の枠組みでの遺伝性腫瘍の遺伝学的検査が、今後、保険診療に導入されます。このようなゲノム医療の本格的な導入に備えて、2018年3月、本学附属病院に「遺伝診療部」が開設され、同年4月より診療を開始しました。

診療体制と内容

今まで各診療科において行われていた遺伝診療を包括し横断的に、以下の3つの診療を核としてスタートしました。(図) 診療体制として、中央診療部に位置付けられて、臨床遺伝指導医、専門医および認定遺伝カウンセラー、専属の看護師を中心として、各診療科より選出された各疾患のエキスパートの兼任医師や各科主治医との連携・協力のもと、横断的に適切な遺伝学的検査と十分な遺伝カウンセリングを提供します。診療は、完全予約制です。また、遺伝学的検査を受検される場合には、

複数回の受診が必要なこともあります。現在、単独の遺伝カウンセリングは、保険診療の対象外ですので、原則、自費診療となります。遺伝学的検査も別途、費用がかかりますが、保険収載されたものもありますので、費用は診療の内容等によって異なります。今回、本学附属病院では初の医療専門職である「認定遺伝カウンセラー」が配置されました。認定遺伝カウンセラーは、遺伝診療部をハブとして、各診療科を越えて横断的に動き、必要とする患者へ遺伝診療と遺伝カウンセリングを繋げてゆきます。



産声をあげたばかりの「遺伝診療部」ですが、今後は、新しい医学教育モデル・コア・カリキュラムにも従い、ゲノム医療に関わる教育・人材育成も担いながら、遺伝性疾患や先天異常症、がんのある患者、およびその血縁者へ、より良い医療と遺伝カウンセリングを提供するため、さらに体制の整備を継続的に発展し進化してゆく予定です。

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

1月5日

大学1号館に講堂にて新たな門出を祝う

新年挨拶交歓会

新年挨拶交歓会が平成30年1月5日(金)に大学1号館講堂において開催されました。谷口専務理事が司会で、栗原理事長ならびに松藤学長、各機関長(丸毛院長、伊藤院長、中村院長、東條院長)よりご挨拶がありました。

栗原理事長のご挨拶の中で西新橋キャンパス再整備計画、フローレンス・ナイチンゲールの教え、医療現場における働き方改革等が述べられ、新たな門出に相応しい新年挨拶交歓会となりました。

1月31日

退任記念講義が行われ、夜には記念パーティーを盛大に開催

平成29年度 退任記念講義・パーティー

平成30年1月31日(水)、定年退任となる中川秀己教授(皮膚科学講座)、森川利昭教授(外科学講座・呼吸器外科、乳腺・内分泌外科)、橋本和弘教授(心臓外科学講座、副学長)、水之江義充教授(細菌学講座)の退任記念講義が大学1号館講堂(3階)で行われました。

その後、同じく定年退任となる谷口郁夫教授(内科学講座・循環器内科、専務理事)、伊藤洋教授(精神医学講座、葛飾医療センター院長)、岸本幸一教授(泌尿器科学講座)、大西明弘教授(臨床検査医学講座)、薄井紀子教授(大学直属)、東條克能教授(内科学講座・糖尿病・代謝・内分泌内科、柏病院院長)が紹介され、学長挨拶、記念品贈呈等が行われました。

同日夜には東京プリンスホテルマグノリアホールにて退任記念パーティーが盛会に開催されました。



2月16日

京都大学教授 山中伸弥先生をお招きしご講演いただく

第1263回成医会例会

平成30年2月16日(金)、第1263回成医会例会が2号館講堂で開催されました。今回は、京都大学iPS細胞研究所所長/教授 山中伸弥先生をお招きし、「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」と題してご講演をいただき、最後に松藤成医会会長より謝辞が述べられました。大学1号館講堂、葛飾医療センター、第三病院、柏病院にもテレビ会議システムを用いて中継され、多くの教職員が参加し、大変盛会となりました。



家族の健康への 思いやり、 自分の健康について 考える機会

2月15日
3月2日

港区立御成門小学校・中学校での
出張授業「がん教育」について

大学は、社会貢献活動のひとつとして小・中・高校と連携し研究成果を還元する出張授業(アウトリーチ活動)を行っています。附属病院医療連携センターの橋渡しにより、港区教育委員会と連携し、御成門小学校、御成門中学校において、「がん教育」をテーマに出張授業を行いました。

「がん教育」授業は、御成門中学校においては中学3年生2

クラスに平成30年2月15日、御成門小学校においては小学6年生2クラスに平成30年3月2日の2回、看護部の和田美恵師長、森川みはる看護師が講師として実施されました。授業は、「カニ」のイラストの紹介からはじまり、生徒に声をかけ、対話しながら授業を進めていました。とても温かい雰囲気、「がん」とは、生活習慣とがんの関係、早期発見のための検診の重要性などを伝える内容でした。

御成門中学校、御成門小学校の先生方から、今回の「がん教育」授業を通して、生徒・児童は「家族の健康への思いやり、そして自分の健康について考える機会になり、授業のねらいに沿っていた」との意見をいただきました。また、中学校・小学校の先生方に授業アシスタントを行っていただきましたことを申し添えます。

このような御成門中学校、御成門小学校と連携する教育活動が、今後も継続されることを期待できるものと感じました。



御成門中学校でのがん教育



御成門小学校でのがん教育



2号館講堂にて厳粛に卒業式を挙行

第93回医学科・第23回看護学科卒業式

平成30年3月3日(土)午後1時30分から2号館講堂に於いて第93回医学科・第23回看護学科卒業式が挙行されました。卒業生は医学科115名、看護学科57名でありました。音楽部管弦楽団が「威風堂々」を演奏する中、松藤学長を先頭に栗原理事長、宇都宮医学科長、北看護学科長、名誉教授、高橋同窓会長、多村医学科保護者会長が入場され厳粛に卒業式が開始されました。国歌斉唱後、松藤学長より卒業生一人ひとりに卒業証書(学位記)が授与され、続いて慈大賞が秋元香澄さん(医学科)と高麗葵さん(看護学科)に授与されました。また、同窓会賞が高橋同窓会長より内山敬太君(医学科)と松井咲良さん(看護学

科)に、保護者会賞が多村医学科保護者会長より貴田浩之君(医学科)に授与され、更に日本私立看護系大学協会会長賞が、窪田咲穂さん(看護学科)に授与されました。次いで樋口一成記念杯については、運動部門(アメリカンフットボール部)、文化部門(Jikei CPR Study Group)に記念の樋口杯が授与されました。その後、宇都宮医学科長、北看護学科長による学事報告、松藤学長による式辞、栗原理事長による祝辞、在校生代表による送辞、卒業生代表による謝辞が述べられ、学生歌斉唱の後、厳かなうちに卒業式を終了しました。

3月3日



公益社団法人東京慈恵会総裁 寛仁親王妃信子殿下御臨席のもと、66期生96名が卒業

慈恵看護専門学校卒業式

平成30年3月10日(土)に2号館講堂にて慈恵看護専門学校卒業式(66期生96名)が公益社団法人東京慈恵会総裁寛仁親王妃信子殿下御臨席のもと、盛大に挙行されました。2号館講堂では初めての挙行となりました。



3月10日

看護系大学院教育に非常に有用な討議が行われ、両校の今後の強い連携を期待させる

第10回慈恵医大・上智大学ジョイントシンポジウム

3月19日

上智大学と本学の包括連携に基づき第10回慈恵医大・上智大学ジョイントシンポジウムが平成30年3月19日本学にて開催されました。本シンポジウムは2001年から開催されており2006年までは、ほぼ定期的に開催されておりました。その後、しばらく開催されなかった時期もありましたが、ここ3年は毎年開催されています。今回は本学主催で「看護系大学院教育の現状とこれから」というテーマで両大学の看護の大学院教育をメインに講演討議がなされました。上智大よりは看護師でもあり、また上智大学生命倫理研究所の有江文栄先生に「看護のプロフェッショナリズム～看護師に求められる資質、心得、行動、倫理」と題して講演していただき御自身の入院体験を含めて強いメッセージを寄せられました。その後上智大の総合人間科学研究

科 看護学専攻の石川ふみよ先生より「看護系大学院教育の現状」塚本尚子先生より「上智大学大学院看護学専攻において大切にしているケアリング」と題した上智大学の看護系大学院教育の現状を御講演いただきました。両、御講演とも現在、博士後期過程設置準備をしている本学にとり非常に有益な御講演でした。本学よりは医学研究科 看護学専攻の田中幸子教授より本学の看護学専攻の歩み、同専攻長の櫻井尚子教授より来年度開校予定の本学の博士後期課程設置に向けた現状を御講演いただき、現状を簡潔に発表されました。両校ともに存在する問題点などが浮き彫りになり、両校の看護系大学院教育に非常に有用な討議ができ、かつ両校の今後の強い連携を期待させるジョイントシンポジウムになりました。今回は上智大主催で今年度中にも開催される予定です。

申請総数59件の中で15件が採択され、私立大学では唯一慈恵医大だけが採択された

文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業 (総合診療GP事業) 「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発」報告
総合診療GP推進委員会委員長 総合診療内科教授 大野岩男

東京慈恵会医科大学は平成25年度から5年間の予定で開始された文部科学省GP:未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」において、当大学の申請プログラムである「卒前から生涯教育に亘る総合診療能力開発一地域における臨床研究の推進を目指して」が採択された。申請総数59件の中で15件が採択されたが、私立大学では唯一慈恵医大だけが採択された結果であった。

取組概要は以下のようになる(図)。すなわち、地域と大学が強く連携し、卒前から卒業・生涯に亘る時間軸の中で、「幅広い多様性」という総合診療の専門性を基礎に、地域医療で生じた問題を自ら解決するための臨床研究を提案・

平成25年度～平成29年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業

取組大学：東京慈恵会医科大学
取組名称：卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発
一地域における臨床研究の推進を目指して

○取組概要
地域と大学が強く連携し、卒前から卒業・生涯に亘る時間軸の中で、「幅広い多様性」という総合診療の専門性を基礎に、地域医療で生じた問題を自ら解決するための臨床研究を提案・実行し、エビデンスを発信できる医師を養成する8つのプログラムを開発した。本事業では、プライマリケア現場で活躍するclinician researcherを育成する全学的なシステムを開発・整備し、地域医療のための人材養成拠点を構築した。

プログラム名	実施者	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1. 医師総合診療能力養成	医学科	125	128	134
2. へき地医療プログラム	初期研修医2年目	48	43	40
3. 総合診療コース	後期研修医	2(1名開始)	5(1名開始)	4(1名開始)
4. 地域医療プライマリケア実習	大学院博士課程	14(医師) 14(看護師)	13(医師) 13(看護師)	12(医師) 12(看護師)
5. コンパニオンコース	後期研修医・大学院博士課程	0	0	0
6. 地域医療研究	医師、研究者	58	59	52
7. 家庭医療プラクティス	医師	10	9	8
8. 地域医療スタートアップ	医師	22	14	18

大学病院附属「地域医療プライマリケア」では、(名)が学位(博士(臨床))を取得した。

実施した8つのプログラムの概要について
「医師総合診療能力養成」：臨床研修「へき地医療プログラム」は、大学院博士課程における授業科目「地域医療プライマリケア」は平成25年度に設置し、今年も継続する。
「コンパニオンコース」は平成26年度に設置し、今年も継続する。
「地域医療研究」：総合診療センターを開設し、総合診療専門医養成の拠点として整備し、専門研修プログラムを実施する。
「家庭医療プラクティス」：家庭医療プラクティスプログラム、「家庭医療スタートアップ」は継続して実施する。

遂行し、エビデンスを発信できる医師を養成する8つのプログラムを開発した。本事業では、プライマリケア現場で活躍する clinician researcherを育成する全学的なシステムを開発・整備し、地域医療のための人材養成拠点を構築した。大多数のプログラムは事業終了後にも継続することになっている。

4月2日

453名の新入職員が、新しい一步を踏み出す

新入職員就任式



平成30年4月2日(月)午前10時より2号館講堂において初となる新入職員就任式が執り行われました。式典では初めに栗原敏理事長より告辞を賜り、松藤千弥学長の祝辞に次いで四機関病院長を代表して丸毛啓史附属病院長の祝辞も賜りました。新しい2号館講堂における新入職員就任式は、明るく晴れやかな雰囲気の中厳かに進められ453名の新入職員が喜びとともに大きな期待と希望を胸に慈恵大学での第一歩を踏み出す門出となりました。

2号館講堂にて入学式開催。 医学科110名、看護学科60名が入学

平成30年度医学部入学式

平成30年4月5日(木)午後2時より2号館講堂において医学科・看護学科の入学式が厳粛に執り行われました。音楽部管弦楽団が奏でる「威風堂々」とともに松藤学長を先頭に、栗原理事長、宇都宮医学科長、北看護学科長、名誉教授、高橋同窓会長、多村医学科保護者会長が入場し、開会が宣せられました。入学者は医学科110名、看護学科60名でありました。国歌斉唱後、松藤学長の入学許可に続き、医学科入学生を代表して高江侑里さん、看護学科入学生を代表して篠田美和子さんより宣誓が述べられました。

続いて入学生および在校生に対して松藤学長より告辞が述べられ、次いで栗原理事長より、祝辞が述べられました。

次いで、入学生を代表して医学科・鈴木竜矢君と看護学科・西尾菜々実さんに記念品が贈呈され、学生歌斉唱の後、厳かなうちに入学式を終了しました。

4月5日



平成30年(2018)主な行事予定表

- 7月21日(土) 看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
- 7月22日(日) 看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
- 8月4日(土) 慈恵医大夏季セミナー 大学1号館講堂
- 8月13日(月) 医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
- 8月14日(火) 医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
- 10月6日(土) 同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から大学1号館講堂)
- 10月11日(木)~12日(金) 第135回成医会総会
- 10月13日(土) 学祖高木兼寛先生墓参及び懇談会(午後3時30分中央棟前集合)

- 10月15日(月) 高木兼寛先生記念日
- 10月20日(土) 卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和43年卒) (午後6時から東京プリンスホテル)
- 10月28日(日) 第114回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
- 11月10日(土) 医学科保護者会秋期総会(午後3時から2号館講堂)懇親会(2号館講堂)
- 12月26日(水) 教授・准教授懇談会(午後6時からホテルオークラアスコットホール)

2017年11月から2018年4月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

大学公報

行事

●平成29年度第3回学位記授与式が11月27日(月)午後2時30分より、大学1号館講堂において挙行された。

授与された者	大学院修了者	6名
	論文提出者	10名
	計	16名

●全機関同時開催(テレビ会議システム)による平成30年新年挨拶交歓会が1月5日(金)より大学1号館講堂(3階)において開催された。

●東日本大震災7周年追悼式の当日における弔意が3月11日(日)弔旗を掲揚し、午後2時46分を期して黙とう1分間を実施した。

●第93回医学科卒業式、第23回看護学科卒業式が次の通り挙行された。
平成30年3月3日(土) 医学科卒業生 115名
看護学科卒業生 57名

●平成29年度慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校合同卒業式が次の通り挙行された。

平成30年3月10日(土)	
慈恵第三看護専門学校卒業生	53名
慈恵柏看護専門学校卒業生	66名

●第8回医学研究科看護学専攻修士課程修了式が3月24日(土)午前10時より大学管理棟9階カンファレンスBにおいて挙行された。

●平成30年度慈恵看護専門学校、慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校合同入学式が、次の通り挙行された。
平成30年4月4日(水)午前10時より2号館講堂

●平成30年度入学式が次の通り挙行された。
平成30年4月5日(木)午後2時より2号館講堂

公示

●平成29年11月1日

五味 秀穂准教授に、客員教授を委嘱する
 横田 太持准教授に、教授を命ずる
 山本 裕准教授に、教授を命ずる
 鈴木 克己准教授に、教授を命ずる
 小小木 英男講師に、准教授を命ずる
 儀武 路雄講師に、准教授を命ずる
 (特任期間 平成29年11月1日～平成32年3月31日)

●平成29年11月28日

賀 裕子整備員(法人事務局財務部施設課)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰された。

●平成29年12月1日

松岡 美佳講師に、客員教授を委嘱する

●平成29年12月28日

吉田 和彦教授に、葛飾医療センター院長を命ずる
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 秋葉 直志教授に、附属柏病院院長を命ずる
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)

●平成30年1月1日

曾雌 茂准教授に、教授を命ずる
 石井 雄道氏に、准教授を命ずる
 古田 昭講師に、准教授を命ずる
 木村 高弘講師に、准教授を命ずる
 三木 淳講師に、准教授を命ずる
 飯村 慈朗講師に、准教授を命ずる
 斎藤 充氏に、附属病院整形外科診療部長を命ずる
 曾雌 茂氏に、附属柏病院整形外科診療部長を命ずる
 小森 学氏に、附属第三病院耳鼻咽喉科診療部長代行を命ずる

●平成30年1月25日

飯田 誠教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 忽滑谷 和孝教授に、慈恵柏看護専門学校長を命ずる
 (就任年月日 平成30年4月1日)
 伊藤 洋氏に、参与を命ずる
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 東條 克能氏に、参与を命ずる
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)

●平成30年2月1日

中山 昌明講師に、客員教授を委嘱する
 三村 秀毅講師に、准教授を命ずる
 坂本 昌也講師に、准教授を命ずる
 野木 裕子講師に、准教授を命ずる

●平成30年3月1日

増岡 秀一講師に、准教授を命ずる
 (特任期間 平成30年3月1日～平成32年3月31日)
 附属病院中央診療部門に、遺伝診療部を設置する
 井田 博幸氏に、附属病院遺伝診療部診療部長(兼任)を命ずる

●平成30年3月31日

中川 秀己教授は、定年により職を解く
 森川 利昭教授は、定年により職を解く
 橋本 和弘教授は、定年により職を解く
 水之江 義充教授は、定年により職を解く
 谷口 郁夫教授は、定年により職を解く
 伊藤 洋教授は、定年により職を解く
 岸本 幸一教授は、定年により職を解く
 大西 明弘教授は、定年により職を解く
 薄井 紀子教授は、定年により職を解く
 東條 克能教授は、定年により職を解く
 寄附講座 先進医療情報技術研究講座は組織を解消する
 寄附講座 慢性腎臓病病態治療学講座は組織を解消する

公示

●平成30年4月1日

総合医科学研究センター内に先端医療情報技術研究部を設置する
 附属病院 輸血部は、輸血・細胞治療部に名称変更する
 附属病院が港区立がん在宅緩和ケア支援センターの管理運営者となる
 吉田 和彦氏を、学校法人慈恵大学理事に選任する
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 秋葉 直志氏を、学校法人慈恵大学理事に選任する
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 吉田 和彦氏を、学校法人慈恵大学評議員に選任する
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 秋葉 直志氏を、学校法人慈恵大学評議員に選任する
 (任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 山本 裕康氏に、参事を命ずる
 中野 知子氏に、客員教授を委嘱する
 薄井 紀子氏に、客員教授を委嘱する
 朝比奈 昭彦教授に、皮膚科学講座担当教授を命ずる
 谷口 郁夫氏に、特命教授を命ずる
 橋本 和弘氏に、特命教授を命ずる
 西川 正子特任教授に、教授を命ずる
 須賀 万智准教授に、教授を命ずる
 山本 裕康客員教授に、准教授を命ずる
 池田 耕士氏に、准教授を命ずる
 千田 実氏に、准教授を命ずる
 (特任期間 平成30年4月1日～平成33年3月31日)

中村 美鈴看護学科客員教授に、看護学科教授を命ずる
 谷津 裕子氏に、看護学科教授を命ずる
 佐藤 紀子氏に、看護学科教授を命ずる
 (特任期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
 山下 真裕子氏に、看護学科准教授を命ずる
 中島 淑恵氏に、看護学科准教授を命ずる
 谷口 郁夫教授に、経営管理研究室長を命ずる
 小川 匡市氏に、葛飾医療センター外科診療部長を命ずる
 小池 和彦氏に、附属第三病院消化器・肝臓内科診療部長を命ずる
 中田 浩二氏に、附属第三病院中央検査部診療部長を命ずる
 小井戸 薫雄氏に、附属柏病院消化器・肝臓内科診療部長を命ずる
 三澤 健之氏に、附属柏病院外科診療部長を命ずる
 三木 淳氏に、附属柏病院泌尿器科診療部長を命ずる
 大木 隆生氏に、附属病院呼吸器外科診療部長(兼任)を命ずる
 庄司 和広氏に、葛飾医療センター手術部診療部長(兼任)を命ずる
 大場 理恵氏に、附属第三病院輸血部診療部長(兼任)を命ずる
 戸谷 直樹氏に、附属柏病院手術部診療部長(兼任)を命ずる
 森田 紀代造氏に、附属病院心臓外科診療部長代行を命ずる
 石川 威夫氏に、附属第三病院呼吸器内科診療部長代行を命ずる

Notice

大学公報

学事

● 大学院修了者

29.11.8	藤本 義隆	
29.11.22	中川 良	
29.12.13	吉田 秀平	
29.12.27	太田 裕貴	隅山 昌洋
30.1.24	本田 真理子	玉井 将人
	菱田 英枝	
30.2.14	石丸 紗恵	鳴井 亮介
	濱田 華	嘉山 智大
30.2.28	篠原 恵	梶原 一紘
	西條 琢真	朴 鍾赫
	鈴木 博史	小林 賢司
30.3.14	溜 雅人	井廻 良美
	佐藤 亮	
30.3.28	吉井 悠	岡部 陽菜子
	井内 裕之	平田 幸広
	米永 健徳	小川 優樹
	萩野 展広	
30.4.25	春原 浩太郎	

● 学位論文通過者

29.11.22	山川 英晃	本田 ひろみ
29.12.27	小森 学	志村 英二
30.1.10	岩久 章	
30.1.24	阿部 貴行	
30.2.14	横川 裕一	松浦 隆樹
	坂本 太郎	今井 那美
30.2.28	松田 弘道	堤 穰志
	鴨下 桂子	
30.3.14	高木 聡	伊藤 善翔
	作田 健一	
30.3.28	福本 梨沙	小林 俊樹
30.4.11	柴崎 隆正	
30.4.25	瀬尾 千顕	吉田 拓生
	伊東 哲史	

訃報

- ▶ 松本 文夫客員教授(内科学講座(腎臓・高血圧内科))は、11月6日逝去されました。
- ▶ 北川 照男日本大学名誉教授(昭和25年 本学専卒)は、12月18日逝去されました。
- ▶ 大野 典也名誉教授(旧微生物学講座第1)は、12月23日逝去されました。
- ▶ 首藤 新八元教授(国領校 英語研究室)は、7月14日逝去されました。

Notice

大学公報

東京慈恵会公報

● 教職員人事(慈恵看護専門学校)

平成30年4月1日	昇級	5等級・看護教員	松澤 亜希子	4等級・看護教員
		4等級・看護教員	宇田川 絵美子	3等級・看護教員
	転入	4等級・看護教員	藤田 阿朱佳	附属病院 看護師
	転出	4等級・事務員	鈴木 晶子	附属病院 業務課

● 行 事

- 平成29年11月14日(火) 公益社団法人東京慈恵会理事会が開催された。
- 平成29年12月 2日(土) 慈恵看護専門学校戴帽式が挙行された。1年生(68期生) 99名
- 平成30年 3月10日(土) 慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。卒業生 96名
- 平成30年 3月20日(火) 東京慈恵会理事会、評議員会、定期総会が開催された。
- 平成30年 4月 4日(水) 慈恵看護専門学校入学式が挙行された。入学生(69期生) 109名

補助金・助成金

平成30年度科学研究費助成事業 申請・採択状況一覧

種目	新規申請件数	30年度 採択件数		
		新規内定件数	継続内定件数	内定件数合計
新学術領域研究	15	0	1	1
基盤研究 (S)	1	0	0	0
基盤研究 (A)	3	0	2	2
基盤研究 (B)	28	4	4	8
基盤研究 (C)	129	25	67	92
挑戦的萌芽研究	0	—	1	1
挑戦的研究 (開拓)	2	—	0	0
挑戦的研究 (萌芽)	30	—	1	1
若手研究 (A)	0	—	3	3
若手研究 (B)	0	—	31	31
若手研究	104	25	0	25
奨励研究	1	0	0	0
合計	313	54	110	164

注) ①内定件数は平成30年4月1日時点。なお、4月1日時点の転出者は含まれているが、4月1日付転入者は除く。
 ②応募時期・内定時期の異なる「研究活動スタート支援」「特別研究員奨励費」「挑戦的研究(開拓)」「挑戦的研究(萌芽)」「国際共同研究強化」は除く。
 ③延長(基金)、学外分担者を除く。

私立大学研究ブランディング事業タイプA(社会展開型)(事業期間5年)

採択年度	氏名(所属・職名)	研究プロジェクト
平成29年度	安保雅博 (リハビリテーション医学講座・教授)	働く人の疲労とストレスに対するレジリエンスを強化する Evidence-based Methods の開発

平成29年度決算

1. はじめに

平成29年度は、既存建物並びに医療機器等の経常的な修繕と更新に加えて、西新橋キャンパス再整備に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額(利益)は予算を上回る結果となりました。

2. 資金収支計算書

施設・設備関係支出は162億円でした。主な内容は、建設仮勘定108億円、本院電子カルテを含む教具28億円、医療器械12億円、建物12億円でした。

施設・設備関係支出が大きかったことから、次年度繰越金は486億円となり、前年度末比較で134億円減少しました。

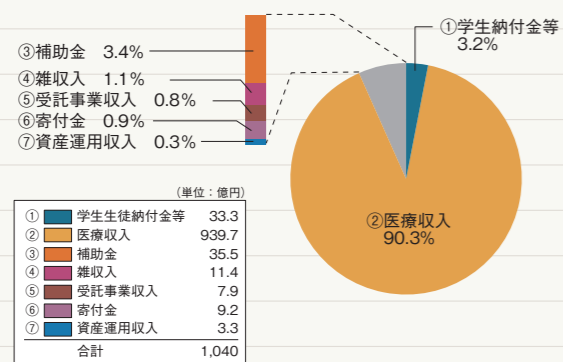
3. 事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加により前年度比27億円増加の1,040億円となりました。

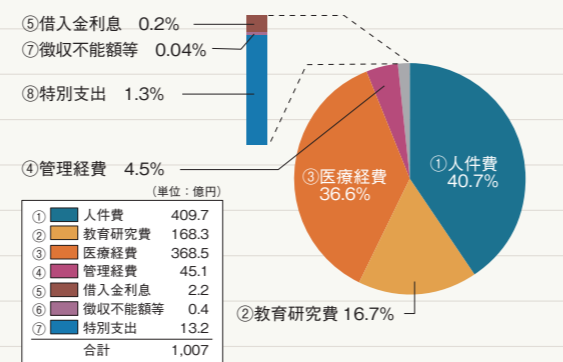
支出の部は、大学本館・大学2号館・旧図書館取壊しにより資産処分差額13億円を計上したこと、取壊しの際のアスベスト対策費用等で諸経費が5億円増加したこと、また、2号館竣工と本院電子カルテ導入により消耗品費が4億円増加したこと等から、前年度比では44億円増加の1,007億円となりました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額(利益)は33億円となり、前期比では減益となったものの、予算を達成することができました。

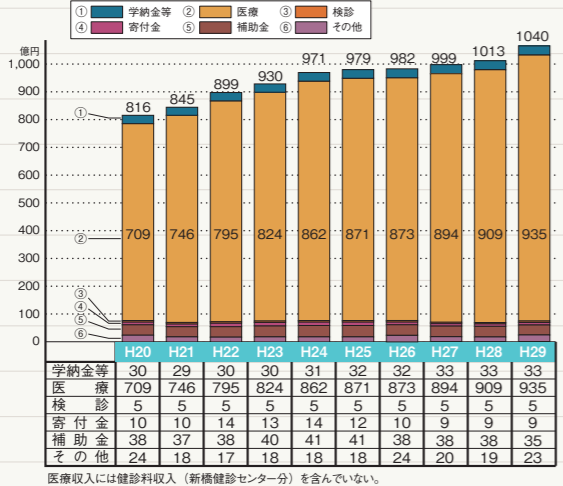
平成29年度事業活動収入の構成



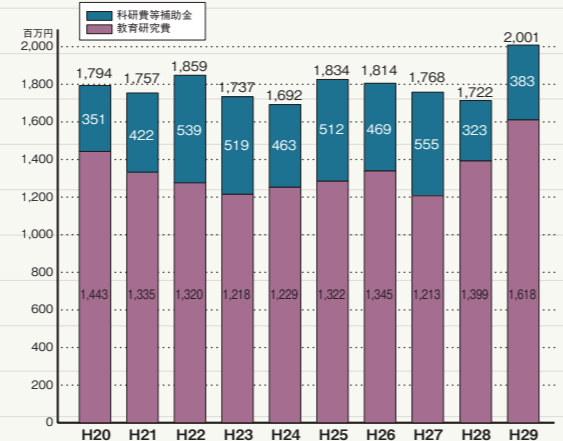
平成29年度事業活動支出の構成



事業活動収入の推移 (H20~H29)



教育研究費の推移 (H19~H28)



※ここで用いた「教育研究費」とは、各課室・教室等で購入した教員等固定資産に分類されるものも含めた実質的教育研究に使われた費用の合計を指している。「科研費等補助金」とは、文部科学省の日本学術振興会、厚生労働省の科学研究費、その他の機関からの委託研究費等の合計額である。

4. 貸借対照表

純資産の部の増加33億円は当年度の利益です。この利益の内21億円は借入金の返済と長期未払金(リース、割賦の支払)に充当され、残りの12億円の内10億円は短期有価証券として内部留保されました。

固定資産は135億円増加しましたが、現金預金の減少134億円で賄われました。

尚、固定資産増加の内50億円は有価証券の増加であり、この分は現金預金が有価証券にシフトされたこととなります。

純資産の部の合計は1,472億円で、自己資金比率は69.5%となりました。

5. 決算開示方法について

平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

平成29年度事業活動収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出	40,967,078,886	教育活動収入	3,176,950,000
人件費	53,680,133,615	学生生徒納付金	153,712,500
教育研究経費	16,826,706,404	手数料	874,607,067
医療経費	36,853,427,211	寄付金	751,032,067
管理経費	4,512,459,830	医療経費支出	3,832,682,256
借入金利息	2,200,000,000	補助金収入	3,547,513,680
徴収不能額等	42,095,609	国庫補助金	3,322,311,060
徴収不能引当金繰入額	42,095,609	地方公共団体補助金	222,302,620
教育活動支出計	99,201,767,940	その他の補助金	2,900,000
教育活動外支出	217,219,074	事業収入	94,759,346,729
借入金等利息	217,219,074	医療収入	93,966,033,410
教育活動外支出計	217,219,074	受託事業収入	793,313,319
特別支出	1,316,777,882	雑収入	1,137,967,682
資産処分差額	1,310,840,829	受取利息・配当金収入	328,946,395
その他の特別支出	5,937,053	資産売却収入	2,700,000
過年度修正額	0	雑収入	1,137,967,682
特別支出計	1,316,777,882	借入金収入	1,900,000,000
特別収入	0	前受金収入	630,673,802
資産売却差額	0	その他の収入	17,452,835,513
その他の特別収入	189,211,397	資金収入調整勘定	△ 16,776,385,421
施設設備寄付金	123,575,000	期末未収入金	△ 16,128,694,707
現物寄付	45,819,397	前期末前受金	△ 647,690,714
施設設備補助金	19,817,000	前年度繰越支払資金	62,050,345,879
過年度修正額	0	前年度繰越支払資金	62,050,345,879
特別収入計	189,211,397	支出の部合計	169,239,213,826
特別収支差額	△ 1,127,566,485	収入の部合計	169,239,213,826
基本金組入前当年度収支差額	3,289,098,554		
基本金組入額合計	△ 11,544,913,926		
当年度収支差額	△ 8,255,815,372		
前年度繰越収支差額	△ 21,906,839,665		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	△ 30,162,655,037		
翌年度繰越収支差額	△ 30,162,655,037		

事業活動支出計 100,735,764,896 事業活動収入計 104,024,863,540

平成29年度資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	40,771,820,057	学生生徒納付金収入	3,176,950,000
教育研究経費支出	47,949,240,741	手数料収入	153,712,500
教育研究費支出	12,758,693,000	寄付金収入	874,607,067
医療経費支出	35,190,547,741	補助金収入	3,547,513,680
管理経費支出	3,832,682,256	国庫補助金	3,322,311,060
借入金等支払利息支出	2,200,000,000	地方公共団体補助金	222,302,620
借入金等返済支出	3,672,450,000	その他の補助金	2,900,000
施設関係支出	12,044,098,542	事業収入	94,759,346,729
設備関係支出	4,150,655,200	医療収入	93,966,033,410
資産運用支出	7,004,480,000	受託事業収入	793,313,319
その他支出	16,929,559,066	受取利息・配当金収入	328,946,395
資金支出調整勘定	△ 15,982,144,447	資産売却収入	2,700,000
期末未払金	△ 15,982,144,447	雑収入	1,137,967,682
次年度繰越支払資金	48,649,153,337	借入金収入	1,900,000,000
		前受金収入	630,673,802
		その他の収入	17,452,835,513
		資金収入調整勘定	△ 16,776,385,421
		期末未収入金	△ 16,128,694,707
		前期末前受金	△ 647,690,714
		前年度繰越支払資金	62,050,345,879
支出の部合計	169,239,213,826	収入の部合計	169,239,213,826

平成29年度貸借対照表

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	146,144,849,119	132,640,628,391	13,504,220,728
有形固定資産	109,453,491,316	100,463,255,509	8,990,235,807
土地	6,731,341,407	6,731,341,407	0
建物	74,000,814,025	69,645,634,164	4,355,179,861
構築物	265,467,377	293,953,443	△ 28,486,066
教育研究用機器備品	13,471,002,139	11,504,709,513	1,966,292,626
管理用機器備品	2,158,206,206	2,560,312,111	△ 402,105,905
図書	2,933,759,706	2,926,275,512	7,484,194
車両	1,398,293	7,335,011	△ 5,936,718
建設仮勘定	9,868,340,255	6,770,532,440	3,097,807,815
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	35,091,357,803	30,577,372,882	4,513,984,921
施設利用権	421,448,012	415,832,460	5,615,552
有価証券	33,130,157,220	28,125,677,220	5,004,480,000
長期貸付金	406,600,891	433,743,771	△ 27,142,880
ソフトウェア	1,133,151,680	1,602,119,431	△ 468,967,751
流動資産	65,837,541,499	78,083,937,690	△ 12,246,396,191
現金預金	48,649,153,337	62,050,345,879	△ 13,401,192,542
未収入金	15,976,616,151	15,713,140,094	263,476,057
貯蔵品	83,371,366	94,214,613	△ 10,843,247
有価証券	1,000,000,000	0	1,000,000,000
仮払金	128,400,645	226,237,104	△ 97,836,459
資産の部合計	211,982,390,618	210,724,566,081	1,257,824,537

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	45,823,514,511	47,902,204,065	△ 2,078,689,554
長期借入金	24,306,540,000	26,301,150,000	△ 1,994,610,000
長期未払金	2,627,666,021	2,907,004,404	△ 279,338,383
退職給与引当金	18,889,308,490	18,694,049,661	195,258,829
流動負債	18,910,141,174	18,862,725,637	47,415,537
短期借入金	1,994,610,000	1,772,450,000	222,160,000
未払金	15,882,992,826	16,059,898,513	△ 176,905,687
前受金	630,673,802	647,690,714	△ 17,016,912
預り金	400,809,546	381,531,410	19,278,136
保証金	1,055,000	1,155,000	△ 100,000
負債の部 合計	64,733,655,685	66,764,929,702	△ 2,031,274,017

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	177,411,389,970	165,866,476,044	11,544,913,926
第1号基本金	170,049,675,895	158,663,760,481	11,385,915,414
第4号基本金	7,361,714,075	7,202,715,563	158,998,512
翌年度繰越収支差額	△ 30,162,655,037	△ 21,906,839,665	△ 8,255,815,372
繰越収支差額	30,162,655,037	21,906,839,665	8,255,815,372
純資産の部 合計	147,248,734,933	143,959,636,379	3,289,098,554
負債及び純資産の部合計	211,982,390,618	210,724,566,081	1,257,824,537

平成30年6月文部科学省へ提出 (単位:円)

平成30年度予算について

1. 予算編成方針

平成30年度の予算編成方針は以下としました。

- ① 既存の債務返済と平成30年度に予定される西新橋キャンパス再整備を含めた設備投資計画を、遅滞なく遂行できる予算とする。
- ② 当年度収支差額(利益)目標を43.5億円以上とする。平成29年度の当年度収支差額予算30.0億円と比べると+13.5億円(+45%)の大幅な増益予算に見えますが、要因は平成29年度には大学本館並びに大学2号館取壊しに伴う除却損を13.1億円計上した為で、実質的には平成29年度とほぼ同じ水準の利益を目指す編成方針です。

2. 平成30年度予算概要

(1) 事業活動収支計算書

- 当年度収支差額予算は44.0億円としました。結果的に予算編成方針の43.5億円を若干上回る予算を編成することができました。
- 収入合計は、平成29年度予算比+24.3億円(+2.3%)の1,062.2億円。この内、医療収入が同

比+27.9億円(+3.0%)の966.9億円と大きく伸びる予算です。

- 支出合計は、平成29年度予算比+10.3億円(+1.0%)の1,018.2億円と小幅の伸びに抑える計画です。主な要因は、医療収入の増加に伴い医療経費が大きく増加(平成29年度予算比+18.1億円)するもの、資産処分差額の減少(同比▲14.1億円)が相殺する為です。
- (2) 資金収支計算書
 - 施設関係支出・設備関係支出金額が130.9億円(平成29年度予算比▲40.3億円)と前年度予算比では大幅に減少する見込です。
 - 主な要因は、西新橋再整備を中心とした建設仮勘定支出が79.4億円(同比▲31.9億円)に減少すること、また、本院電子カルテ導入完了により教具支出が9.9億円(同比▲11.4億円)に減少する為です。但し、医療器械は検診センター用の機器を購入することから28.1億円(同比12.4億円)に増加します。

平成30年度資金収支予算書 (単位:千円)

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	平成29年度	平成30年度	対前年比較	科目	平成29年度	平成30年度	対前年比較
人件費支出	41,176,512	41,662,383	485,871	学生生徒納付金収入	3,185,480	3,158,160	▲27,320
教育研究経費支出	47,297,886	49,076,480	1,778,594	手数料収入	179,586	155,161	▲24,425
教育研究経費	13,119,602	13,139,074	19,472	寄付金収入	902,572	831,288	▲71,284
医療経費	34,178,284	35,937,406	1,759,122	補助金収入	3,814,184	3,429,819	▲384,365
管理経費支出	3,913,689	3,845,125	▲68,564	国庫補助金	3,517,493	3,158,437	▲359,056
				地方公共団体補助金	293,691	268,382	▲25,309
				その他の補助金	3,000	3,000	0
				事業収入	94,599,922	97,434,700	2,834,778
				医療収入	93,900,008	96,688,166	2,788,158
借入金等支払利息支出	240,000	204,911	▲35,089	受託事業収入	699,914	746,534	46,620
				受取利息・配当金収入	270,381	292,006	21,625
借入金等返済支出	3,672,450	3,894,610	222,160	雑収入	835,964	915,219	79,255
施設関係支出	12,512,172	9,107,291	▲3,404,881	借入金等収入	1,900,000	1,900,000	0
設備関係支出	4,603,572	3,982,506	▲621,066	前受金収入	647,691	647,691	0
資産運用支出	5,000,000	1,000,000	▲4,000,000	その他の収入	16,339,798	16,345,347	5,549
その他支出	16,662,563	16,662,563	0				
[予備費]	700,000	700,000	0	資金収入調整勘定	▲10,647,691	▲15,030,316	▲4,382,625
資金支出調整勘定				期末未収入金	▲10,000,000	▲14,382,625	▲4,382,625
期末未払金	▲16,062,820	▲16,062,820	0	前期末前受金	▲647,691	▲647,691	0
次年度繰越支払資金	62,050,345	40,818,014	▲21,232,331	前年度繰越支払資金	53,562,883	44,811,988	▲8,750,895
支出の部合計	181,766,369	154,891,063	▲26,875,306	収入の部合計	165,590,770	154,891,063	▲10,699,707

平成30年度事業活動収支予算書 (単位:千円)

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	平成29年度	平成30年度	対前年比較	科目	平成29年度	平成30年度	対前年比較
教育活動支出				教育活動収入			
人件費	41,334,385	41,818,538	484,153	学生生徒納付金	3,185,480	3,158,160	▲27,320
教育研究経費	53,049,408	55,139,410	2,090,002	手数料	179,586	155,161	▲24,425
教育研究経費	17,223,619	17,506,061	282,442	寄付金	732,265	751,288	19,023
医療経費	35,825,789	37,633,349	1,807,560	経常費等補助金	3,814,184	3,429,819	▲384,365
管理経費	4,630,965	4,557,644	▲73,321	付随事業収入	94,599,922	97,434,700	2,834,778
				医療収入	93,900,008	96,688,166	2,788,158
				受託事業収入	699,914	746,534	46,620
徴収不能額等	50,000	30,000	▲20,000	雑収入	835,964	915,219	79,255
教育活動支出計	99,064,758	101,545,592	2,480,834	教育活動収入計	103,347,401	105,844,347	2,496,946
				教育活動収支差額	4,282,643	4,298,755	16,112
教育活動外支出				教育活動外収入			
借入金等利息	240,000	204,911	▲35,089	その他の受取利息・配当金	270,381	292,006	21,625
教育活動外支出計	240,000	204,911	▲35,089	教育活動外収入計	270,381	292,006	21,625
教育活動外収支差額	30,381	87,095	56,714	教育活動外収支差額	30,381	87,095	56,714
				経常収支差額	4,313,024	4,385,850	72,826
特別支出				特別収入			
資産処分差額	1,481,086	70,000	▲1,411,086	資産売却差額	0	0	0
その他の特別支出	0	0	0	その他の特別収入	170,307	80,000	▲90,307
				施設設備寄付金	170,307	80,000	▲90,307
特別支出計	1,481,086	70,000	▲1,411,086	施設設備補助金	0	0	0
				特別収入計	170,307	80,000	▲90,307
				特別収支差額	▲1,310,779	10,000	1,320,779
基本金組入前当年度収支差額	3,002,245	4,395,850	1,393,605	基本金組入額合計	0	▲3,652,783	▲3,652,783
				当年度収支差額	3,002,245	4,395,850	1,393,605
				前年度繰越収支差額	▲18,747,778	▲21,906,840	▲3,159,062
				基本金取崩額	1,702,801	0	▲1,702,801
				翌年度繰越収支差額	▲14,042,732	▲210,163,773	▲196,121,041
(参考)				事業活動支出計	100,785,844	101,820,503	1,034,659
				事業活動収入計	103,788,089	106,216,353	2,428,264

(参考)

事業活動支出計	100,785,844	101,820,503	1,034,659	事業活動収入計	103,788,089	106,216,353	2,428,264
---------	-------------	-------------	-----------	---------	-------------	-------------	-----------

Notice

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター

慈恵医大 生涯学習セミナー
月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

月例セミナー

●開催日時 第2土曜日(2月、4月、6月、11月)
16:00~18:00
●場所 附属病院(本院)
中央棟8階会議室

第248回
月日・時間 平成30年11月10日(土) 16:00~17:00
テーマ 機能性胃腸症の診断と治療
演者 消化器・肝臓内科 猿田 雅之 教授
月日・時間 平成30年11月10日(土) 17:00~18:00
テーマ 腸内フローラと消化器疾患
演者 消化器・肝臓内科 櫻井 俊之 助教

第249回
月日・時間 平成31年2月9日(土) 16:00~17:00
テーマ COPDの新しいガイドライン
演者 呼吸器内科 荒屋 潤 准教授
月日・時間 平成31年2月9日(土) 17:00~18:00
テーマ 肺癌の画像診断
演者 画像診断部 三角 茂樹 助教

注)内容を変更することもあります。

東京慈恵会医科大学附属病院 医療連携フォーラム(旧 慈恵医大夏季セミナー)
●開催日時 平成30年8月4日(土) 17:00~20:00
●場所 東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂(3階)
テーマ 認知症早期発見時代のメモリークリニックの活用
演者 精神医学講座 繁田 雅弘 教授
テーマ うつ病の最新治療:反復経頭蓋磁気刺激療法
演者 精神医学講座 鬼頭伸輔 准教授

診療科紹介ブース(講演会終了後)
●場所 東京慈恵会医科大学 2号館講堂
精神神経科・リハビリテーション科・循環器内科・患者支援・医療連携センター
(主催) 東京慈恵会医科大学生涯学習センター
東京慈恵会医科大学附属病院患者支援医療連携センター
(共催) 慈恵医大同窓会・慈恵医師会・港区医師会
私立大学研究ブランディング事業
(企画) 生涯学習委員会

お問合せ先:生涯学習センター
TEL:03-3433-1111(大代表)内線2634

慈恵医師会

慈恵医師会産業医研修会
平成30年度は、3月に開催いたします。
(主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

お問合せ先:慈恵医師会
TEL:03-3433-1111(大代表)内線2636

附属病院(本院)

平成30年度 みんなの健康教室 未病、予防のための体の知識
(共催: NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学)
●開催時間 13:30~14:45(開場13時)
●場所 NHK放送博物館 8Kシアター

第3回
月日 平成30年9月22日(土)
テーマ 体の仕組みを知って元気で長生き!
演者 リハビリテーション科 佐々木 信幸 (准教授/診療副部長)
テーマ ジェネリック医薬品とお薬手帳の活用法
演者 薬剤部 深澤 千穂

第4回
月日 平成30年11月24日(土)
テーマ 人生 100 年時代の高血圧管理
演者 腎臓・高血圧内科 松尾 七重 (講師/診療医長)
テーマ 知っておきたい薬の飲み合わせ
演者 薬剤部 木下 夏海

第5回
月日 平成31年1月12日(土)
テーマ 危険な腰痛を見極めよう! ~予防・診断・治療~
演者 整形外科 藤井 英紀 (講師/診療副部長)
テーマ 効果的な外用薬の使い方
演者 薬剤部 仁科 彩佳

第6回
月日 平成31年3月16日(土)
テーマ 知っておきたい鼻の病気とその治療 -鼻炎、副鼻腔炎、嗅覚障害を中心に-
演者 耳鼻咽喉科 森 恵莉 (講師/診療医長)
テーマ アレルギー薬の正しい使い方
演者 薬剤部 山口 祐希

お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL:03-5400-1202(直通)

市民公開講座

第28回
月日・時間 平成30年8月18日(土) 10:00~12:00
場所 看護専門学校1階
テーマ 心臓蘇生PUSHコース

第29回
月日・時間 平成30年10月16日(火) 19:00~20:00
場所 C棟7階 シミュレーション教育施設
テーマ 心臓蘇生PUSHコース

月日・時間 平成30年9月8日(土) 14:00~16:00
場所 南講堂
テーマ 乳がんについて

お問合せ先:管理課
TEL:03-3433-1111(大代表)内線5150

東京慈恵会医科大学

看護学科主催 公開講座【国領キャンパス】
第25回
月日・時間 平成30年9月 詳細決定、決定次第、大学ホームページ掲載
場所 看護学科
テーマ 健康チェックしてみませんか? まちの保健室<大学版>
演者 地域看護学 嶋澤 順子 教授 久保 善子 講師 清水 由美子 講師 小野 真代 助教

お問合せ先:看護学科 学事課
TEL:03-3430-8686(自動オペレーター)内線2775

葛飾医療センター

公開セミナー
●開催時間 14:00~15:30
●場所 葛飾医療センター 5階講堂

第50回
月日 平成30年9月8日(土)
テーマ 前立腺癌について(仮)
演者 泌尿器科、看護部

第51回
月日 平成31年2月9日(土)
テーマ 腎臓病について(仮)
演者 腎臓・高血圧内科、看護部

お問合せ先:管理課
TEL:03-3603-2111(大代表)内線5911

第三病院

公開健康セミナー
第84回
月日・時間 平成30年7月7日(土)14:00~15:30
場所 看護学科1階 大講堂
テーマ 聴活で人生を楽しく~難聴は認知症の最大の危険因子~
演者 耳鼻咽喉科 小森 学 診療部長代行

お問合せ先:管理課
TEL:03-3480-1151(大代表)内線3711

柏病院

平成30年度地域がん診療連携拠点病院事業 市民公開講座
第21回
月日・時間 平成30年9月8日(土)14:00~16:30
場所 慈恵柏看護専門学校講堂
テーマ 肺がんのお話~地域が連携して患者を支えよう~

お問合せ先:業務課
TEL:04-7164-1111(大代表)内線2152

市民公開講座

第8回
月日・時間 平成30年7月28日(土)13:30~17:00
場所 外科手術センター スキルラボ室
テーマ ブラックジャックセミナー

お問合せ先:管理課
TEL:04-7164-1111(大代表)内線2185



←最新情報はこちら

Notice

寄付のお願い

創立百三十年記念事業募金の御礼とご協力のお願い

学祖・高木兼寛先生は明治14年5月1日(1881)に、東京慈恵会医科大学の前身である成医会講習所を開設しました。本学は成医会講習所開設以来130年余にわたり、質の高い医療人を育成し、医療を通して社会に貢献するとともに、医療を支える研究の振興に努めてまいりました。

この間、医療は高度・専門化し、それに対応する専門医を育成するとともに、一方では総合的診療能力を備えた医師の育成が求められています。本学の使命を果たすためには、教育・研究施設の改善・充実を図り、附属病院の施設整備を行うことが喫緊の課題となっています。

本学は大学の教育研究施設の他に4附属病院を有しており、長・中期計画を立ててこれらの施設の整備を行っています。

これまで、平成12年(2000)には本院中央棟を、平成14年(2002)には大学1号館を完成させました。更に、平成24年(2012)には東京慈恵会医科大学葛飾医療センターを開院し順調に運営されています。

また、本院外来棟は開設以来50年を超え、病院の老朽化が進み手狭になっています。中央棟に隣接して外来棟を建て、患者さんの利便性を図るとともに、東京都から借用した隣地を活用して、病院と大学の建物を整理し、機能的なキャンパスに整備する建築計画が平成28年2月から実施され、計画が順調に進捗しています。昨年6月には港工業高校跡地に2号館が竣工しました。現在、新病院(仮称)の建築と新外来棟(仮称)の基礎工事が計画通り進んでいます。その後順次、国領キャンパス、第三病院の整備が進められます。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、資金の調達には限界があります。

本学の将来計画と学祖の建学の精神にご賛同賜り、これまで関係各方面から心温まるご支援をいただきました。ご協力下さいました方々の温かいご芳志に厚くお礼申し上げます。我々の使命を果たすためにさらに一層の努力をしておりますので、引続き関係各位の全面的なご協力を心よりお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

創立百三十年記念事業募金寄付者名簿

- 同窓生
 - (医)秀慈会リバーシティ すすき整形外科
 - (医)生和会赤羽 レディースクリニック
 - 厚川 清美
 - 和泉 滋
 - 倉島 富代
 - 佐野 尚子
 - 白井 康仁(☆)
 - 高安 英樹
 - 仲田 浄治郎
 - 本多 芳男
- 同窓会支部会・クラス会
 - 慈大五二会一同
 - 同窓会高知支部
 - 同窓会中野支部
 - 平成3年卒業生一同
 - 平成10年卒業生一同
- 父兄
 - 大澤 正市
 - 小田 勝彦
 - 倉持 要大
 - 小関 誠一郎
 - 小立 健
 - 杉山 博之

- 野武 美紀
- 伴 和彦
- 平井 賢治
- 廣本 光司
- 堀見 智子(☆)
- 松澤 吉保
- 宮部 邦子
- 企業
 - (株)エスアールエル
 - (株)ガレット
 - 三協立山(株)
 - 慈恵ファミリーサービス(株)
 - 慈恵メディカルサービス(株)
- 大成建設(株)
- 松岡塗料(株)
- 一般個人
 - 伊藤 博(☆)
 - 今井 啓雄
 - 往西 純子(☆)
 - 大鷲 由紀子
 - 高橋小児科医院 高橋 久美子
 - 樋口 美和子
 - 教職員
 - 川久保 孝
 - 中川 秀己

・平成29年11月1日~平成30年4月30日までに頂いたご寄付のご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。
・お名前の後ろの☆印は旧募集期間の募金に加えて、期間延長後にも一定金額以上の募金をしていただいた方です。

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、大学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、大学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待・贈答の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受け取りを禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などにに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-3433-1111(代表) 内線5099
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145
FAX 03-3690-7474



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
TEL 03-3480-1151(代表)内線3804、3830
FAX 03-3430-3611



柏病院

患者支援センター 医療連携部門



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL 04-7164-1111(代表)内線2158
FAX 04-7164-1197



ロシア皇帝
ニコライ二世
(1868~1918年)



ニコライ皇太子(後のニコライ二世)は、1891年4月27日に日本の長崎に寄港した。日本政府は、この未来のロシア皇帝に対して国賓待遇で迎え、接待係として、イギリスへの留学経験があり当時の皇族中で随一の外国通であった有栖川宮威仁親王を任命した。鹿児島、神戸、京都などを経て、5月11日に大津に入ったニコライは、琵琶湖や唐崎神社を見学し、京都へ戻る際、津田三蔵にサベルで斬りつけられ、右耳上部を負傷した。この事件によって、日本国民の世論はニコライへの同情と津田への憎しみで占められ、ニコライの軍艦には日本中から手紙と贈り物が届いた。こうした日本人の態度に接してニコライは、日本を離れる直前に侍従武官長バリエインスキーの名前で感謝状を新聞に寄せた。

編集後記

診療報酬改定や新専門医制度、働き方改革など、病院を取り巻く経営環境は、ますます複雑になり、舵取りは難しくなっています。こうした中で、本学のOBであり、一般社団法人 日本病院会会長でもある「社会医療法人財団 慈恵会 相澤病院」理事長の相澤孝夫先生に、経営哲学、病院経営の課題、医療界の今後などについて、直接お話を伺うことができました。

経営不振に苦しむ病院を立て直し、医療現場で働くスタッフのモチベーションを高め、地域の救急救命を担う中核病院に育て上げた鍵は、一貫しておられることのない経営哲学にありました。本学OBに、このように頼もしい医療人がいることに誇りを感じるとともに、病院経営に携わる多くの人たちのご参考にしていただきたく、特集記事としてお届けすることにいたしました。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 穎川 晋

発行 学校法人 慈恵大学
 発行人 理事長 栗原 敏
 連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 学校法人 慈恵大学 広報課
 TEL 03-3433-1111(大代表)
 FAX 03-5400-1281
 e-mail koho@jikei.ac.jp
 号数 第31号
 発行日 2018年8月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>